平成22年度
市民アンケート調査

南アルプス市総合政策部政策推進課

目　　次

第１章　　調査の概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1

１．　目　的　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1
２．　調査の内容　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1
３．　調査仕様　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1
４．　回収結果　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　2
５．　前回までの調査状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　2
６．　結果の活用　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3
７．　報告書の見方　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3

第２章　調査結果　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　4

Ⅰ．　基本属性　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　4
Ⅱ．　満足度調査の概観　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　9
Ⅲ．　行動調査の概観　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　15
Ⅳ．　意識調査の概観　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　18
Ⅴ．　政策別にみる調査結果　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　21
(1) 行政改革に関する調査結果　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　21
(2) 自治会・コミュニティに関する調査結果　・・・・・・・・・・・・・　22
(3) 情報発信と市民参画に関する調査結果　・・・・・・・・・・・・・・　23
(4) 国際交流と共生に関する調査結果　・・・・・・・・・・・・・・・・　23
(5) 男女共同参画社会づくりに関する調査結果　・・・・・・・・・・・・　24
(6) 安全な生活環境づくりに関する調査結果　・・・・・・・・・・・・・　24
(7) 地産地消に関する調査結果　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　25
(8) 買い物状況に関する調査結果　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　26
(9) 就労状況に関する調査結果　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　26
(10)　道路に関する調査結果　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　27
(11)　住んでいる地域の水害に関する調査結果　・・・・・・・・・・・・　28
(12)　街並み景観や安らぎ空間に関する調査結果　・・・・・・・・・・・　28
(13)　上水道に関する調査結果　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　29
(14)　土地利用と住環境に関する調査結果　・・・・・・・・・・・・・・　29
(15)　公共交通に関する調査結果　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　30
(16)　社会福祉に関する調査結果　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　31
(17)　保健・医療に関する調査結果　・・・・・・・・・・・・・・・・・　31
(18)　窓口サービス等に関する調査結果　・・・・・・・・・・・・・・・　32
(19)　生涯学習活動及び文化施設に関する調査結果　・・・・・・・・・・　33

(20)　学校教育に関する調査結果　・・・・・・・・・・・・・・・・・　33
(21)　青少年健全育成に関する調査結果　・・・・・・・・・・・・・　34
(22)　文化財・伝統芸能に関する調査結果　・・・・・・・・・・・・　34
(23)　スポーツ・レクリエーションに関する調査結果　・・・・・　35

第1章　調査の概要

1．目　的

市民アンケートは、平成 15 年度に「第 1 次南アルプス市総合計画」を策定するためのデータ収集を目的に実施され、以降、総合計画の進捗管理を行うとともに、市役所で行っている施策や事務事業、行政サービスに対して「どれだけ満足しているか（満足度調査）」、日常市民の方々は「どんなことを実践しているのか（行動調査）」、「どんなことを感じているのか（意識調査）」の項目により市民ニーズを的確に把握し、行政資源の配分及び行政サービスの改善につなげることを目的に隔年で実施してきた。

平成 22 年度から総合計画の後期期間が始まり、混沌とした社会情勢や厳しさを増す財政状況の中で“市民の声”を施策に反映し、最も必要とされる施策･事業を推進するため、市民アンケート調査を毎年実施することとした。また、今回の調査から、設問項目の一部について事例などを加え具体的な表現にした。

2．調査の内容

設問項目	設問数	調　査　内　容
回答者の属性	6	性別、年齢、家族構成、職業、居住地区、居住年数
満足度調査	22	市の施策、事業に対する満足具合に関する調査
行動調査	12	日頃の市民の行動に関する調査
意識調査	28	日頃、市民が感じていること、思っていることに関する調査

3．調査仕様

仕様項目	仕　　様
調査地域	南アルプス市全域
調査対象者	市内に在住する 18 歳以上の男女
調査基準日	平成 22 年 5 月 1 日
標本数	1,500 人
抽出方法	1,500 人／層化無作為抽出 市内を 6 地区に分割し、基準日における各地区の人口（母集団）の大きさに応じ標本数を配分し、住民基本台帳から無作為抽出
調査方法	郵送による配布･回収
調査期間	平成 22 年 6 月 2 日から平成 22 年 6 月 21 日

※　6 地区とは、八田地区、白根地区、芦安地区、若草地区、櫛形地区及び甲西地区である。

図表1　人口と発送数の内訳

（単位：人、％）

	八田地区	白根地区	芦安地区	若草地区	櫛形地区	甲西地区	合計
人　口	7,467	20,003	404	12,605	19,503	13,014	72,996
構成比	10.2	27.4	0.6	17.3	26.7	17.8	100.0
発送者	151	408	21	257	398	265	1,500
構成比	10.1	27.2	1.4	17.1	26.5	17.7	100.0

※　人口は、平成 22 年 5 月 1 日現在の住民基本台帳登録者数

図表2　男女構成比

（単位：人、％）

	男　性	女　性
人　数	36,052	36,944
構成比	49.4	50.6

4．回収結果

有効回答　586 件（回収率　39.1％）

図表3　回収数の内訳

（単位：人、％）

	八田地区	白根地区	芦安地区	若草地区	櫛形地区	甲西地区	不明	合計
回収数	54	162	7	107	159	92	5	586
構成比	9.2	27.6	1.2	18.3	27.1	15.7	0.9	100.0
回収率	35.8	39.7	33.3	41.6	39.9	34.7	―	39.1

5．前回までの調査状況

	第1回	第2回	第3回	第4回
調査期間	平成 15 年 10 月 6 日 ～ 平成 15 年 10 月 31 日	平成 17 年 9 月 7 日 ～ 平成 17 年 9 月 28 日	平成 19 年 9 月 25 日 ～ 平成 19 年 10 月 19 日	平成 21 年 5 月 20 日 ～ 平成 21 年 6 月 8 日
標本数	2,000 人	1,500 人	1,500 人	1,500 人
調査項目数	30 項目	68 項目	87 項目	117 項目
有効回答	859 件	631 件	670 件	616 件
回収率	43.0％	42.1％	46.7％	41.1％

6．結果の活用

① 「第1次南アルプス市総合計画後期基本計画」で設定したまちづくり指標に該当する項目を調査し施策評価のデータとして活用することで、マネジメントサイクル（ＰＤＣＡ）による進行管理を行う。

② まちづくりの達成度や投資した予算の効果を数字で把握し、市民の視点に立った施策･事業等を選択する手段の一つとして活用する。

③ 継続的な観察による数値を公表することにより、行政の透明性の向上を図る。

④ 社会環境や市民の意向の変化に迅速に対応し、時代のニーズに見合った実施計画を策定する。

⑤ 否定的な回答が高い項目については、調査結果を顕著に受け止め、市民ニーズに対応するため事務事業評価を行い、事務改善を検討する。

7．報告書の見方

① 本文及び図表の百分率（%）は、小数点第 2 位を四捨五入しているため、合計数値が100%に達しない場合がある。

② 本文中の（n）は、回答者総数を示す。また、未回答については、“記入無”として示した。

③ 回答比率（%）は、その質問の未回答者を含む回答者数を基数（有効標本数 n＝Number of case）として算出した。

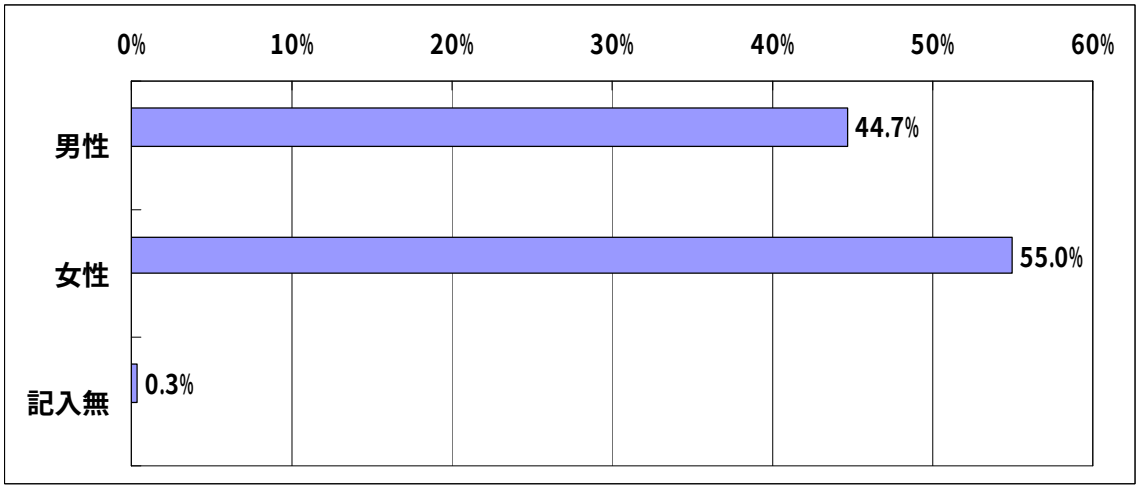
④ 本文中の質問の選択肢については、長い文は簡略化してある。

第2章　調査結果

Ⅰ　基本属性

F1　性別

図表Ⅰ-1　性別（SA）　n＝586



（調査結果）

回答者の性別を尋ねたところ、「男性」が 44.7%、「女性」が 55.0%であった。なお、記入の無かった回答者が 0.3%であった。

回答者の男女別比率は、第 1 回目のアンケート調査から女性の回答割合が高くなっている。

また、平成 22 年 5 月 1 日現在の南アルプス市の人口における性別構成と比較すると、回収したアンケートの性別構成は、男性が 4.7 ポイント少なく、女性は 4.4 ポイント多い。

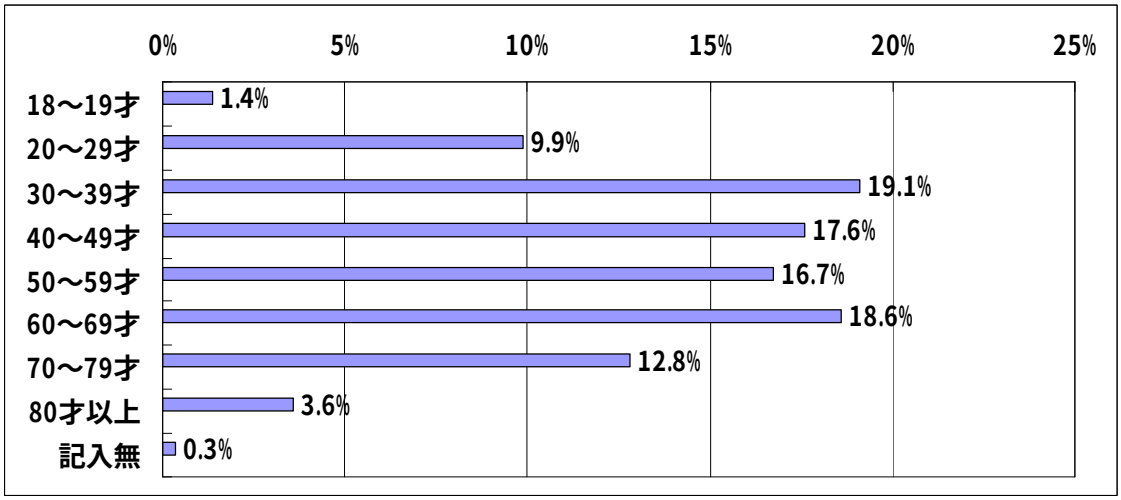
図表Ⅰ-2　アンケート対象者と回収数における性別構成

（単位：%、ﾎﾟｲﾝﾄ）

	人口構成　（A）	回収数の構成　（B）	（B）－（A）
男　性	49.4	44.7	△4.7
女　性	50.6	55.0	4.4

F2　年齢

図表Ⅰ-3　年齢（SA）　n＝586



〔調査結果〕

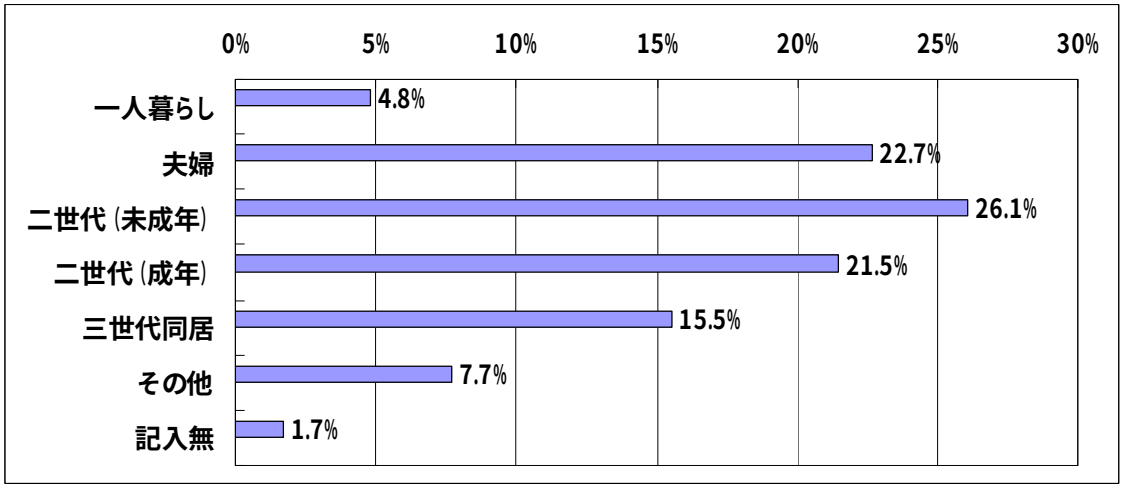
回答者の年齢層については、これまで 4 回の調査結果では「50～59 歳」の回答が、常に一番多かったが、今回、初めて「30～39 歳」の回答割合が多い結果となった。

回答者の年齢層の構成を見ると、「30～39 歳」が 19.1%、「60～69 歳」が 18.6%、「40～49 歳」が 17.6%、「50～59 歳」が 16.7%となっており、この 4 つの年齢層で 7 割以上を占めている。

世界的な経済不況による厳しい社会情勢により、これまでは行政への関心が薄かった 30 歳代･40 歳代が、不安感や危機感を訴える手段として回答した結果であると推察する。

F3　家族構成

図表Ⅰ-4　家族構成（SA）　n＝586



〔調査結果〕

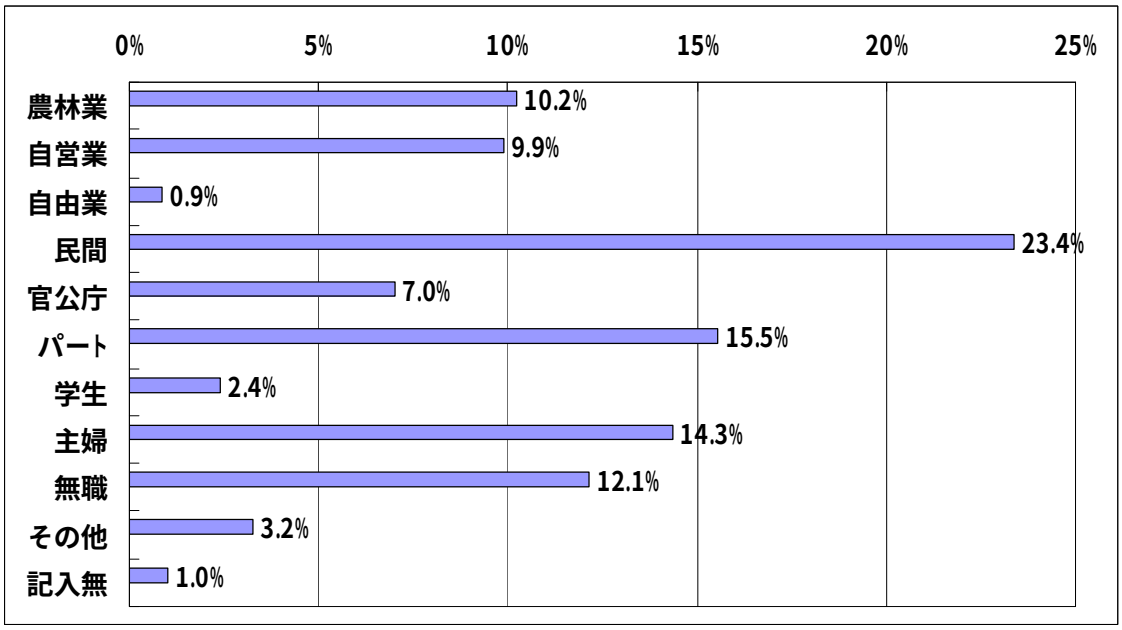
回答者の家族構成については、「未成年の子との二世代同居」が 26.1%と最も多く、次いで「夫婦のみ」の 22.7%、「成年の子との二世代同居」の 21.5%、「三世代同居」の 15.5%となり、この 4 つの家族構成で 85%以上を占めている。

“子育て世代（未成年の子との二世代同居）”は、保育や教育に対する関心が強いため、回答率も高いものと推察する。

また、“二世帯同居型”、“夫婦のみ”が多いことから、本市の家族構成は核家族化傾向にあるものと推察する。

F4　職業

図表Ⅰ-5　職業（SA）　n＝586



※　職業分類の詳細

職業分類	詳　　細
農林業	農業・林業
自営業	自営の商・工・サービス業（建設業、家族従業員を含む。）
自由業	開業医・弁護士・税理士・僧侶などの自由業
民　間	民間企業・事務所の会社員、従業員
官公庁	官公庁・学校・公社公団・農協など公共的機関の職員
パート	パート・アルバイト・内職
学　生	学生・大学院生
主　婦	主婦・主夫

〔調査結果〕

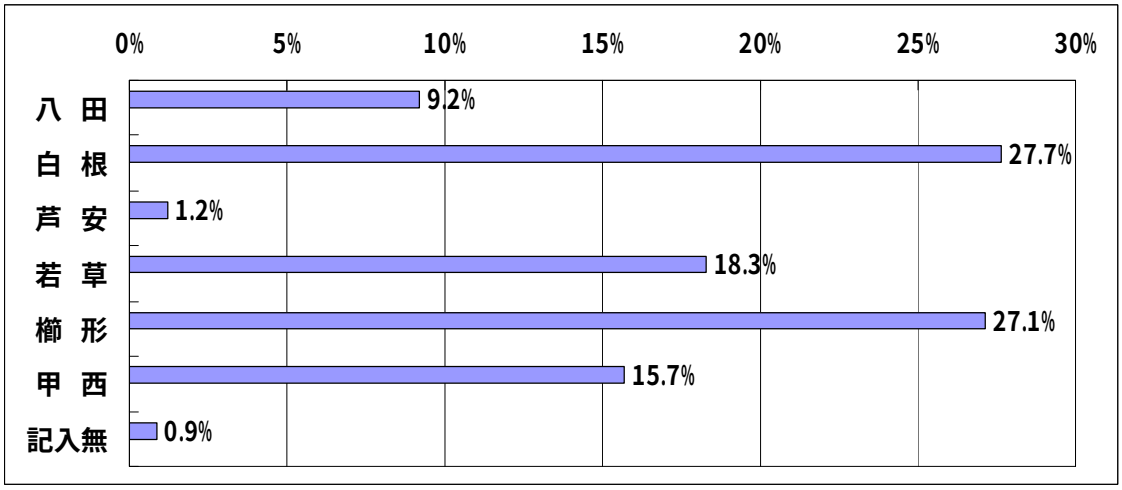
回答者の職業構成については、前々回、前回とほぼ同様の結果で、「民間企業への就業」の回答率が最も多くなっている。

ここ数年の状況は大きな変化は無いものの、第1回目（平成15年度）と比較すると、“農林業”“自営業”“主婦”“無職”の構成率が減少し、“パート”が平成 15 年度の 8.6%から15.5%と大きく伸びている。

小規模な農家や個人商店、中小企業などから離職する者が多く、こうした者が収入を得るために「パート・アルバイト・内職」に移ったものと推察する。

F5 居住地

図表Ⅰ-6 居住地（SA） n＝586



（調査結果）

回答者の居住地については、「白根地区」が 27.7%と最も多く、次いで「櫛形地区」の27.1%、「若草地区」の 18.3%、「甲西地区」の 15.7%、「八田地区」「芦安地区」の順であった。

地区ごとの人口の構成比と回答者の居住地の構成比を比較してみると、概ね近似している結果である。

図表Ⅰ-7 居住地区別人口

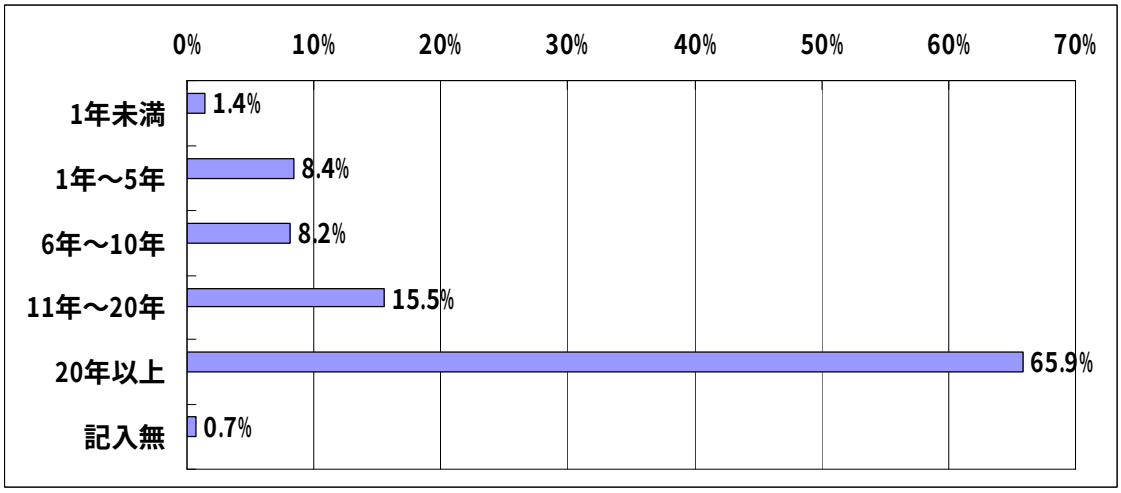
（単位：人、%）

	八田地区	白根地区	芦安地区	若草地区	櫛形地区	甲西地区	合計
人 口	7,467	20,003	404	12,605	19,503	13,014	72,996
構成比	10.2	27.4	0.6	17.3	26.7	17.8	100.0
回答者構成比	9.2	27.7	1.2	18.3	27.1	15.7	―

※ 平成 22 年 5 月 1 日現在

F6 居住年数

図表Ⅰ-8 居住年数（SA） n＝586



〔調査結果〕

回答者の居住年数については、「20 年以上」が 65.9%と圧倒的に多く、次いで「11 年～20 年」の 15.5%となり、「6 年～10 年」「1年～5 年」「1 年未満」の順であった。

南アルプス市内に 11 年以上居住していると回答した者が 80%以上を占めており、依然、定住人口が多い状態である。

Ⅱ　満足度調査の概観

(1)　満足傾向と不満傾向の全体比較

各設問を「満足している」と「やや満足している」を合わせた『満足傾向』と、「不満である」と「やや不満である」を合わせた『不満傾向』に区分けして分析した。

図表Ⅱ-1　満足傾向×不満傾向の比較

№	設問項目	満足傾向(%)	不満傾向(%)	差引(ﾎﾟｲﾝﾄ)	得点	偏差値	評価
3	「広報南アルプス」の内容	62.3	7.9	54.4	4.683	75.53	AAA
16	各種健康診断などの内容	55.1	12.1	43.0	4.412	64.08	A
9	災害時に備え市が実施した防災対策	53.9	12.5	41.4	4.341	61.07	A
11	安全指導や啓発活動などの交通安全対策	50.9	13.7	37.2	4.284	58.66	B
21	市内の学校施設の整備状況	44.7	7.5	37.2	4.266	57.90	B
2	自治会（地域コミュニティ）の活動やイベント	37.7	10.7	27.0	4.208	55.45	B
19	市役所、消防本部、企業局等の電話対応	42.0	13.4	28.6	4.177	54.14	B
22	文化財や伝統芸能の保護や継承	38.3	6.5	31.8	4.167	53.72	B
10	街路灯設置や青パト巡回などの防犯対策	54.8	22.7	32.1	4.150	53.00	B
1	市役所が行っている各種サービス	40.6	14.0	26.6	4.135	52.37	B
18	市役所、消防本部、企業局等の窓口対応	42.8	17.1	25.7	4.128	52.07	B
4	ＣＡＴＶの行政番組の内容	38.6	12.0	26.6	4.086	50.29	B
17	医療機関へ支援を行い整えている救急医療体制	41.9	16.7	25.2	4.003	46.79	C
5	市のホームページの内容	30.7	9.4	21.3	3.925	43.49	C
15	保育所･児童館等の施設整備やサービス内容	38.8	17.2	21.6	3.918	43.19	C
6	海外姉妹都市との国際交流活動	20.5	8.0	12.5	3.917	43.15	C
8	男女共同参画社会の実現に向けた活動	23.2	11.3	11.9	3.890	42.01	C
14	市営バスと従来の路線バスの運行	27.1	19.2	7.9	3.840	39.89	D
13	公園などの子どもの遊び場の整備状況	38.1	29.2	8.9	3.732	35.33	D
12	市内の道路の整備状況	44.8	34.0	10.8	3.731	35.29	D
7	地域に住む外国人との交流活動	11.1	12.1	-1.0	3.694	33.72	D

①　満足傾向をみると、全項目中で最も高い項目が「広報南アルプスの内容」の 62.3%で、この項目は、これまでの調査においても常にトップにランクされている。

次いで、「各種健康診断などの内容」の 55.1%、「街路灯設置や青パト巡回などの防犯対策」の 54.8%、「災害時に備え市が実施した防災対策」の 53.9%、「安全指導や啓発活動などの交通安全対策」の 50.9%の順となり、この 5 項目が満足傾向 50%を超えている。

一方、満足傾向が低かった項目は、「地域に住む外国人との交流活動」の 11.1%、「海外姉妹都市との国際交流活動」の 20.5%、「男女共同参画社会の実現に向けた活動」の 23.2%、「市営バス（試行運行）と従来の路線バスの運行」の 27.1%であり、この 4 項目が満足傾向 30%未満であった。

しかし、「地域に住む外国人との交流活動」、「海外姉妹都市との国際交流活動」、「男女共同参画社会の実現に向けた活動」は、「どちらともいえない」と回答した者の割合が 60%を超えており、現時点では市民にとって関係が薄い施策と読み取れる。

② 不満傾向をみると、「市内の道路の整備状況」の 34.0%、「公園などの子どもの遊び場の整備状況」の 29.2%、「街路灯設置や青パト巡回などの防犯対策」の 22.7%の順となり、この 3 項目が不満傾向 20%を超えている。

しかし、この 3 項目については、満足傾向の数値も比較的高い結果となっていることから、満足度の二極化が生じているものと考える。

例えば、道路の整備状況については、“車を運転する者”にとっては、幹線道路などが供用開始され移動時間の短縮が図られたことから便利となり満足傾向が高くなるが、“歩行者”にとっては、集落内の歩道のない道路や段差の解消されていない道路など不便な面が多く、不満傾向が高くなっているものと推察する。

また、子どもの遊び場や街路灯の設置については、全体的には整備されているが、“家の近くにない”など局地的な不満が出てきたものと推察する。

一方、不満傾向が低かった項目は、「文化財や伝統芸能の保護や継承」の 6.5%、「市内の学校施設の整備状況」の 7.5%、「広報南アルプスの内容」の 7.9%の順となり、5 項目が不満傾向 10%未満であった。

これらの不満傾向の低い項目は、「広報南アルプスの内容」を除き、関係者や体験した者にとっては満足傾向が強いものの、日常的に関係（体験）しない市民も多く、「どちらともいえない」と回答した者の割合も高い項目である。

③ 満足傾向と不満傾向を比較し、満足傾向が不満傾向を上回っていた項目は、22 項目中 21 項目となり、唯一、「地域に住む外国人との交流活動」が満足傾向を不満傾向が上回っていた。

この項目は、満足傾向が 11.1%、不満足傾向が 12.1%、「どちらともいえない」と回答した者の割合が 72.0%、また、未回答者が 4.8%という結果で、「どちらともいえない」と未回答者の割合を合算すると 76.8%となり、市内在住の外国人との交流や日常的な付き合いについては、まだまだ、体験していない市民が多いことが伺える。

④ 構成比にウエイトを付けるため評価点（5 点～1 点）を乗じて加算し得点（合計点）を出し、その平均点を 50 とする偏差値を算出した上で、8 段階にランク付けを行った。

この結果、最高ランクの『ＡＡＡ』が付けられたのは、「広報南アルプスの内容」の 1 項目だけで、2 番目の『ＡＡ』が無く、次いで「各種健康診断などの内容」と「災害時に備え市が実施した防災対策」に『A』が付けられた。

また、最も評価が低い『ＥＥ』と『E』ランクの項目は無く、「市営バス（試行運行）と従来の路線バスの運行」「公園などの子どもの遊び場の整備状況」「市内の道路の整備状況」「地域に住む外国人との交流活動」の 4 項目に『D』が付けられた。

⑤ 縦軸に『満足傾向』、横軸に『不満傾向』をとり、各項目を描画した。
（図表 II -2 参照）

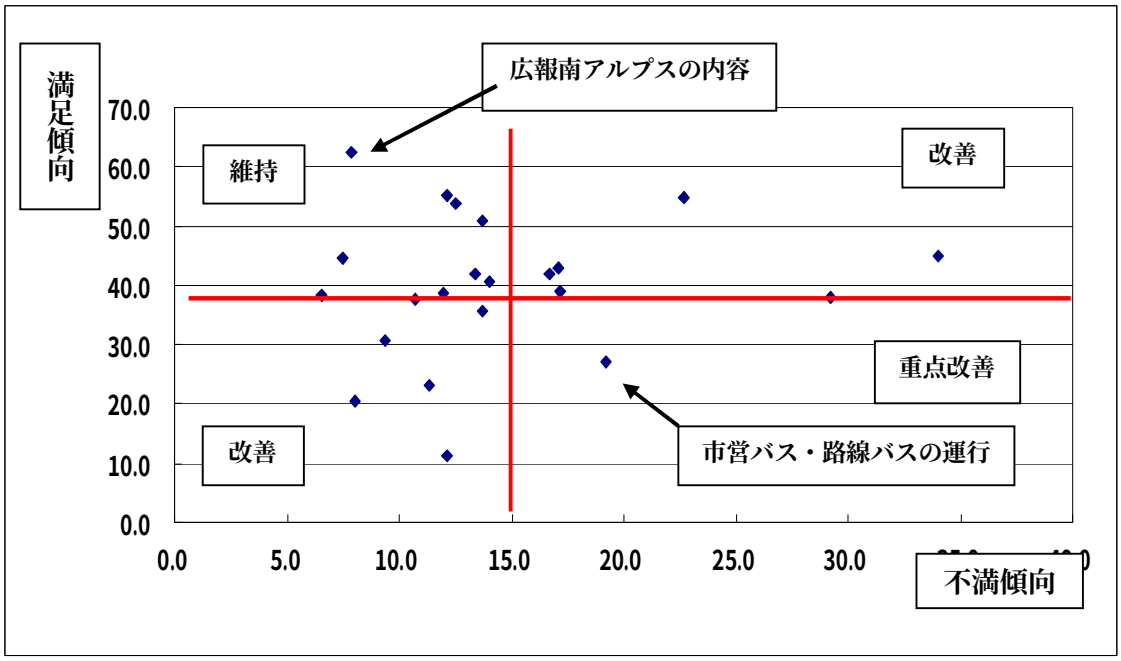
・ 両傾向の平均値を基準にみると、4 つの領域に分けることができる。
左上の領域は満足傾向が高く不満傾向が低い項目、右上は満足傾向・不満傾向とも高い項目、左下は満足傾向・不満傾向とも低い項目、右下は満足傾向が低く不満傾向が高い項目が割振られている。

・ 左上の領域が好ましい状況で、ここには「広報南アルプスの内容」「各種健康診断などの内容」「災害時に備え市が実施した防災対策」などが割振られている。

・ 相対の位置となる右下の領域は、最優先で改善をしなければならない状況で、ここには「市営バス（試行運行）と従来の路線バスの運行」「公園などの子どもの遊び場の整備状況」「保育所・児童館などの施設整備やサービス内容」が割振られた。
「公園などの子どもの遊び場の整備状況」「保育所・児童館などの施設整備やサービス内容」は、平均値に近いため改善策の緊急性については弱いものと考えられるが、「市営バス（試行運行）と従来の路線バスの運行」については、これまでの調査結果においてもこの領域に割振られているため、具体的な改善策が必要とされる。

・ また、右下以外の 2 つの領域についても、左上の領域に近づけるように改善策を講じる必要がある。

図表 II - 2　満足傾向×不満傾向



(2) 時系列による比較（図表 II -3 「第 1 回調査からの第 4 回調査までの比較」参照）

① 満足傾向についてみると、第1回目の調査から連続して「広報南アルプスの内容」が最も高く、その数値は群を抜いている。
　一方、満足傾向の低い項目は、第 1 回目は“バスなどの公共交通”に関する設問であったが、設問項目を加えた第 3 回目からは「地域に住む外国人との交流活動」となっている。

② 不満傾向についてみると、第 1 回目の調査から第 4 回目の調査まで“バスなどの公共交通”に対する不満が多かったが、今回の調査では、初めて「市内の道路の整備状況」が最も高い項目となった。
　第 4 回目までの調査では、不満傾向の割合が 40%以上の項目が複数あったが、今回の調査では、全ての項目において不満傾向の割合が 40%未満となっている。

③ 満足傾向から不満傾向を減じた値をみると、最もその差が大きかった項目は、第 1 回目の調査から連続して「広報南アルプスの内容」（54.4 ポイント）となっている。
　また、第 4 回目の調査までは、減じた値がマイナス値になった項目が複数あったが、今回の調査では「地域に住む外国人との交流活動」の 1 項目であった。

④ 前回（第 4 回）の調査結果と比較して、満足傾向が向上した項目は、22 項目中 20 項目であり、残りの 2 項目（「市役所が行っている各種サービス」「市内の道路の整備状況」）についても、1 ポイント未満の減少であった。
　また、不満傾向が減少した項目は、22 項目中 14 項目で、不満傾向が増加した項目についても微増の範囲である。

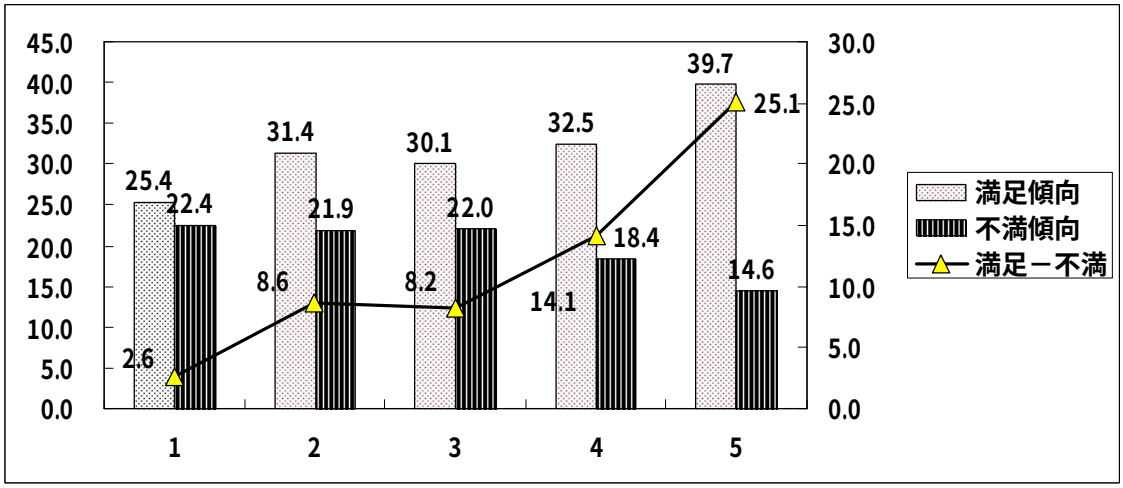
⑤ 満足傾向・不満傾向の平均値でみると、満足傾向については、毎回、順調に増加している。一方、不満傾向については、第 3 回目の調査結果までは、増減を繰り返していたが、第 4 回目からは減少傾向に転じてきた。

図表Ⅱ-3　第１回調査から第４回調査までとの比較

（単位：%、ﾎﾟｲﾝﾄ）

№	設問項目	第１回			第２回			第３回			第４回			第５回		
		満足	不満	差引	満足	不満	差引	満足	不満	差引	満足	不満	差引	満足	不満	差引
1	市役所が行っている各種サービス			0.0			0.0	35.3	16.3	19.0	41.4	11.6	29.8	40.6	14.0	26.6
2	自治会の活動やイベント	20.6	13.4	7.2	25.3	19.5	5.8	25.4	17.6	7.8	28.9	14.1	14.8	37.7	10.7	27.0
3	「広報南アルプス」の内容	54.4	11.1	43.3	56.7	10.5	46.2	57.3	8.7	48.6	59.0	6.5	52.5	62.3	7.9	54.4
4	ＣＡＴＶの行政番組の内容	35.5	13.6	21.9	35.1	15.8	19.3	33.9	15.8	18.1	34.4	15.0	19.4	38.6	12.0	26.6
5	市のホームページの内容	18.1	9.0	9.1	25.7	9.5	16.2	22.2	8.5	13.7	28.1	8.7	19.4	30.7	9.4	21.3
6	海外姉妹都市との国際交流活動	15.3	9.2	6.1	17.3	11.6	5.7	15.1	9.7	5.4	16.3	9.5	6.8	20.5	8.0	12.5
7	地域に住む外国人との交流活動			0.0			0.0	7.0	15.9	-8.9	10.2	13.1	-2.9	11.1	12.1	-1.0
8	男女共同参画社会の実現に向けた活動	11.8	12.4	-0.6	14.7	14.0	0.7	13.4	15.1	-1.7	19.6	9.7	9.9	23.2	11.3	11.9
9	災害時に備え市が実施した防災対策	10.5	29.6	-19.1	27.9	30.4	-2.5	32.7	27.7	5.0	35.1	18.3	16.8	53.9	12.5	41.4
10	街路灯設置や青パト巡回などの防犯対策	18.1	48.9	-30.8	29.5	47.8	-18.3	31.2	44.8	-13.6	33.4	40.2	-6.8	54.8	22.7	32.1
16	各種健康診断などの内容	44.1	11.9	32.2	48.6	13.9	34.7	47.2	16.7	30.5	44.3	18.3	26.0	55.1	12.1	43.0
17	医療機関の支援を行い整えている救急医療体制	23.2	25.9	-2.7	34.1	22.3	11.8	26.0	31.4	-5.4	24.4	26.5	-2.1	41.9	16.7	25.2
18	市役所、消防本部、企業局等の窓口対応	26.3	19.2	7.1	32.2	19.2	13.0	31.4	19.2	12.2	36.2	14.9	21.3	42.8	17.1	25.7
19	市役所、消防本部、企業局等の電話対応	29.1	16.9	12.2	36.3	14.6	21.7	37.0	16.5	20.5	39.4	12.0	27.4	42.0	13.4	28.6
20	保育所･小学校･中学校の保育や教育の内容	26.9	15.8	11.1	29.9	12.2	17.7	29.4	14.2	15.2	33.1	10.2	22.9	35.5	13.7	21.8
21	市内の学校施設の整備状況			0.0	33.8	12.4	21.4	33.1	11.3	21.8	38.1	7.9	30.2	44.7	7.5	37.2
22	文化財や伝統芸能の保護や継承	28.8	11.2	17.6	30.6	15.7	14.9	27.8	17.0	10.8	30.9	11.6	19.3	38.3	6.5	31.8
平均値		25.4	22.4	2.6	31.4	21.9	8.6	30.1	22.0	8.2	32.5	18.4	14.1	39.7	14.6	25.1
ＳＤ		11.1	14.1	19.1	10.0	12.6	17.9	11.4	13.2	19.1	11.0	12.4	18.6	11.9	6.7	12.9

図表 II -4　時系列でみる平均値の推移



時系列の比較をみると、南アルプス市に合併した当時は、旧町村間におけるサービスや生活基盤の格差により満足傾向と不満傾向の値が僅差であった。

その後、総合計画を基本とした施策･事業の実施により、徐々に満足傾向と不満傾向の差が開き始め、今回（第 5 回目）で初めて 20 ポイント台に達した。

III 行動調査の概観

(1) 満足傾向と不満傾向の全体比較

各設問を「行っている」と「どちらかというと行っている」を合わせた『実行傾向』と、「行っていない」と「あまり行っていない」を合わせた『非実行傾向』に区分けして分析してみた。

図表III-1 実行傾向－非実行傾向の比較

№	設問項目	実行傾向 (%)	非実行傾向 (%)	実行－非実行 (ﾎﾟｲﾝﾄ)
29	市内の商店やショッピングセンターなどでの買い物	85.5	7.2	78.3
32	地域の子どもたちへのあいさつや声かけ	69.8	15.9	53.9
28	地元農産物の消費（地産地消）	46.1	32.8	13.3
26	地震等の災害に備えて備蓄や避難場所の確認	41.1	41.1	0.0
31	趣味や娯楽なども含めて、生涯にわたっての学習活動	39.3	46.4	-7.1
24	地域（コミュニティ）活動への参加	37.2	50.3	-13.1
34	習慣化したスポーツ・レクリエーション活動	30.6	59.0	-28.4
25	地域（コミュニティ）活動で中心的・主体的な役割り	16.7	64.9	-48.2
33	過去1年間での市内の史跡探索や伝統芸能の体験活動	11.6	78.7	-67.1
27	防犯カメラの設置など防犯対策	8.9	76.6	-67.7
23	市の様々な計画策定時への参加	10.1	79.7	-69.6
30	過去1年間での路線バスの利用	10.8	86.2	-75.4

① 実行傾向をみると、上位 2 項目（「市内の商店やショッピングセンターなどでの買い物」、「地域の子どもたちへのあいさつや声かけ」）だけが 50%以上となっており、下位の 3 項目については、10%前後の極めて低い数値となっている。

「市内の商店やショッピングセンターなどでの買い物」は 85.5%と高い数値となっており、ショッピングセンターや大型店舗の出店により、市内での購買条件が整っていることが伺える。

また、「地域の子どもたちへのあいさつや声かけ」についても、約 7 割近い市民が行っていると回答しており、青少年育成会議や地区民会議の地道な活動の成果が表れたものと推察する。

② 非実行傾向をみると、「過去1年間での路線バスの利用」が 86.2%、「市の様々な計画策定時への参加」が 79.7%、「過去1年間での市内の史跡探索や伝統芸能の体験活動」が 78.7%、「防犯カメラの設置など防犯対策」が 76.6%となり、この 4 項目が非実行傾向 70%を超えている。

③ 実行傾向から非実行傾向を減じてみると、実行傾向が上回っていた項目は、「市内の商店やショッピングセンターなどでの買い物」・「地域の子どもたちへのあいさつや声かけ」・「地元農産物の消費（地産地消）」の 3 項目であった。

一方、非実行傾向が実行傾向を上回っていた項目の中で、「地域（コミュニティ）活動への参加」・「地域（コミュニティ）活動で中心的・主体的な役割り」・「市の様々な計画策定時への参加」などがあり、これをみると、“地域主体の自治”や“市民協働”について、まだまだ市民へ浸透されていないものと推察する。

また、「地震等の災害に備えて備蓄や避難場所の確認」・「防犯カメラの設置など防犯対策」の実行傾向が非実行傾向を上回っていないが、これは、市内で大きな“災害”や“犯罪”が発生していない安心感が、こうした行為の実行数値を下げているものと推察する。

図表III-2 第 3 回調査・第 4 回調査との比較

（単位：%、ﾎﾟｲﾝﾄ）

№	設問項目	第 3 回			第 4 回			第 5 回		
		実行	非実行	差引	実行	非実行	差引	実行	非実行	差引
23	市の様々な計画策定時への参加				3.7	81.3	-77.6	10.1	79.7	-69.6
24	地域活動への参加	46.0	30.9	15.1	58.6	24.7	33.9	37.2	50.3	-13.1
25	地域活動での中心的・主体的な役割り				28.9	35.2	-6.3	16.7	64.9	-48.2
26	災害に備えて備蓄や避難場所の確認	33.1	31.4	1.7	32.5	31.0	1.5	41.1	41.1	0.0
27	防犯カメラの設置など防犯対策	11.0	56.6	-45.6	10.2	61.1	-50.9	8.9	76.6	-67.7
28	地元農産物の消費（地産地消）	53.6	15.3	38.3	47.0	17.9	29.1	46.1	32.8	13.3
29	市内での買い物	49.1	27.7	21.4	48.6	29.6	19.0	85.5	7.2	78.3
30	過去1年間での路線バスの利用	9.9	76.7	-66.8	8.9	80.6	-71.7	10.8	86.2	-75.4
31	生涯にわたっての学習活動	23.8	39.7	-15.9	17.9	40.1	-22.2	39.3	46.4	-7.1
32	地域の子どもたちへのあいさつや声かけ	40.0	24.4	15.6	40.1	27.1	13.0	69.8	15.9	53.9
33	市内の史跡探索や伝統芸能の体験活動				12.1	57.8	-45.7	11.6	78.7	-67.1
34	習慣化したｽﾎﾟｰﾂ・ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ活動							30.6	59.0	-28.4
平均値		33.3	37.8	-3.0	28.0	44.2	-14.8	34.0	53.2	-19.3
S D		15.8	18.5	27.5	17.9	21.4	36.8	23.7	24.6	48.1

(3) 時系列による比較（図表III-2 「第 3 回調査・第 4 回調査との比較」参照）

① 実行傾向から非実行傾向を差し引いた値が正の値の項目は、「地元農産物の消費（地産地消）」、「市内での買い物」、「地域の子どもたちへのあいさつや声かけ」の 3 項目で、この 3 項目は調査を始めた時から実行傾向が非実行傾向を上回っている。

② 「地域活動への参加」については、前々回、前回と実効傾向が非実行傾向を上回っていたものの、今回の調査で初めて非実行傾向が実行傾向を上回った。これは、徐々に自治会（地域コミュニティ）へ加入（参加）しない市民が多くなってきた傾向と推察する。

③ 行動調査 12 項目の内 8 項目で非実行傾向が実行傾向を上回っている。これは、調査を始めた時からの傾向で、差引きの値に変動があるのは、設問内容を具体的な表現にしたため「どちらともいえない」と回答する者が減少し、実行傾向・非実行傾向のどちらかに回答した結果だと考える。

Ⅳ 意識調査の概観

(1) 肯定系と否定系の全体比較

前回の調査から、“日頃感じていること”、“日頃思っていること”など、市民の方々の“意識”について調査したもので、各設問を「思う（感じる）」と「まあまあ思う（まあまあ感じる）」を合わせた『肯定系』と、「思わない（感じない）」と「あまり思わない（あまり感じない）」を合わせた『否定系』に区分けして分析してみた。

図表Ⅳ-1 「肯定系」－「否定系」の比較

№	設問項目	肯定系 (%)	否定系 (%)	肯定－否定 (ﾎﾟｲﾝﾄ)
50	南アルプス市は、住みやすい地域だと感じますか？	70.8	11.6	59.2
56	「バリアフリー」等の意味をご存知ですか？	65.5	13.7	51.8
45	目的地までの移動時間が短縮されたと感じますか？	61.4	15.4	46.0
59	小･中学校は、適正に配置されていると思いますか？	54.4	10.6	43.8
41	南アルプス市は、買い物に便利な地域だと思いますか？	60.9	23.0	37.9
60	市の文化施設は、利用しやすいと感じましたか？	45.1	9.9	35.2
48	飲んでいる水道の「水」は、おいしいと感じますか？	57.2	22.4	34.8
46	住んでいる地域は、水害の心配はないと思いますか？	53.9	23.2	30.7
47	市内の街並みや景観は、美しいと感じますか？	51.9	22.4	29.5
58	支所は、利用しやすいと感じましたか？	45.2	17.9	27.3
53	安心して子育てができる環境が整っていると思いますか？	42.2	14.9	27.3
62	スポーツ施設は、利用しやすいと感じましたか？	37.4	14.0	23.4
36	市の職員は、信頼がおけると感じますか？	42.7	21.3	21.4
61	健全育成の青少年教育が行われていると感じますか？	34.5	18.3	16.2
54	老後も安心して暮らせると思いますか？	36.7	25.1	11.6
57	本庁は、利用しやすいと感じましたか？	33.3	22.4	10.9
40	仕事と生活のバランスが取れていると思いますか？	39.6	30.7	8.9
52	福祉サービスが安心して受けられると思いますか？	28.0	24.4	3.6
44	市内の道路は、安全に車の運転ができますか？	35.2	32.3	2.9
55	高齢者や障害者の支援対策は、十分だと思いますか？	23.2	25.4	-2.2
49	市内の開発行為は、問題がないと思いますか？	20.5	27.5	-7.0
38	職場や地域で男女差別を感じていますか？	29.9	39.1	-9.2
43	市内の道路は、安全に歩行できますか？	28.2	39.6	-11.4
51	今後、市営バスや路線バスを利用したいと思いますか？	32.3	44.2	-11.9
35	市内他地区との一体感が図られたと感じますか？	25.8	47.3	-21.5
37	家庭内で男女差別を感じていますか？	21.7	54.3	-32.6
39	夫は外、妻は家庭にという考えは、適当だと思いますか？	15.5	53.4	-37.9
42	市内の就職の機会は、十分だと思いますか？	5.3	60.9	-55.6

① 肯定的な回答が多い項目は、「南アルプス市は、住みやすい地域だと感じますか？」、「バリアフリー等の意味をご存知ですか？」、「目的地までの移動時間が短縮されたと感じますか？」、「南アルプス市は、買い物に便利な地域だと思いますか？」の 4 項目で、肯定系の回答割合が 60%以上となっている。

中部横断自動車道や新山梨環状道路など高規格幹線道路の供用開始による移動時間の短縮や大型店舗･ショッピングセンターの出店等により買い物の利便性が向上したため、住みやすい地域だと感じている市民の割合が多くなっている。

② 否定的な回答が多い項目は、「市内の就職の機会は、十分だと思いますか？」、「家庭内で男女差別を感じていますか？」、「夫は外、妻は家庭にという考えは、適当だと思いますか？」の 3 項目で、否定系の回答割合が 50%以上となっている。

既存工業団地から撤退する企業は無く、新たな企業誘致もあり、地元雇用を行っている企業は少なくないが、低迷する経済情勢の影響で求人倍率が低く、全国的に就労状況が芳しくない状態のため、否定的な回答割合が多くなっている。

一方、「家庭内で男女差別を感じていますか？」、「夫は外、妻は家庭にという考えは、適当だと思いますか？」については、設問の内容から否定的な回答割合が多くなることが望ましく、この結果については一定の成果が表れた結果である。

③ 「市内他地区との一体感が図られたと感じますか？」については、合併後 7 年が経過したが、いまだに肯定的な回答割合よりも否定的な回答割合が多くなっている。

しかし、肯定的な回答割合の数値は、年々上昇し、今回の調査で初めて 25%を突破した。

まだまだ一体感を感じられないところもあるが、確実に旧町村間の垣根は取り払われてきているものと推察する。

(2) 時系列による比較（図表Ⅳ-2 「第 4 回調査との比較」参照）

① 意識調査 28 項目中、前回より数値（肯定系割合－否定系割合）が悪化した項目は 11 項目ある。

この中で 4 項目については、社会的な背景が影響し、全国的に不安定な社会情勢や低迷する経済状況により、“就職機会”や“老後の生活”についての不満が募り、また、ゲリラ雷雨や長雨の影響による突発的な“水害”により不安が大きくなり、否定的な回答の割合が多くなったものと推察する。

② 道路に関しては、幹線道路網の整備により自動車での移動時間が短縮され利便性が向上されたが、集落内の道路については、歩道の未整備や危険箇所の未改良などにより、安全だと感じられない割合が多くなっている。

③ 「市の開発行為」については、肯定系割合から否定系割合を減じた値が、唯一、プラス値からマイナス値に転じた項目である。

開発行為については、農振法や都市計画法等に基づき指導しているため、無秩序な開発行為は展開されていない。

しかし、否定系の回答割合が増えているので、この項目が該当する施策『計画的な土地利用の推進』の実施については、市民の意見を十分拝聴する必要がある。

図表Ⅳ-2　第 4 回調査との比較

№	設問項目	第 4 回			第 5 回		
		肯定系	否定系	差引	肯定系	否定系	差引
35	市内他地区との一体感が図られたと感じますか？	19.9	34.3	-14.4	25.8	47.3	-21.5
36	市の職員は、信頼がおけると感じますか？	38.0	26.2	11.8	42.7	21.3	21.4
37	家庭内で男女差別を感じていますか？	18.7	52.7	-34.0	21.7	54.3	-32.6
38	職場や地域で男女差別を感じていますか？	27.3	40.7	-13.4	29.9	39.1	-9.2
39	夫は外で、妻は家庭にという考えは、適当だと思いますか？	16.8	51.5	-34.7	15.5	53.4	-37.9
40	仕事と生活のバランスが取れていると思いますか？	37.0	25.4	11.6	39.6	30.7	8.9
41	買い物に便利な地域だと思いますか？	55.4	31.3	24.1	60.9	23.0	37.9
42	市内の就職の機会は、十分だと思いますか？	6.1	41.7	-35.6	5.3	60.9	-55.6
43	市内の道路は、安全に歩行できますか？	29.9	37.0	-7.1	28.2	39.6	-11.4
44	市内の道路は、安全に車の運転ができますか？	35.2	29.9	5.3	35.2	32.3	2.9
45	目的地までの移動時間が短縮されたと感じますか？	54.9	16.5	38.4	61.4	15.4	46.0
46	住んでいる地域は、水害の心配はないと思いますか？	55.9	17.5	38.4	53.9	23.2	30.7
47	市内の街並みや景観は、美しいと感じますか？	34.4	22.5	11.9	51.9	22.4	29.5
48	飲んでいる水道の「水」は、おいしいと感じますか？	57.8	18.9	38.9	57.2	22.4	34.8
49	市内の開発行為は、問題がないと思いますか？	32.2	15.4	16.8	20.5	27.5	-7.0
50	南アルプス市は、住みやすい地域だと感じますか？	57.7	13.3	44.4	70.8	11.6	59.2
51	今後、市営バスや路線バスを利用したいと思いますか？	17.5	57.2	-39.7	32.3	44.2	-11.9
52	福祉サービスが安心して受けられると思いますか？	23.4	25.4	-2.0	28.0	24.4	3.6
53	安心して子育てができる環境が整っていると思いますか？	31.5	22.5	9.0	42.2	14.9	27.3
54	老後も安心して暮らせると思いますか？	37.8	22.0	15.8	36.7	25.1	11.6
55	高齢者や障害者の支援対策は、十分だと思いますか？	21.0	30.3	-9.3	23.2	25.4	-2.2
56	「バリアフリー」等の意味をご存知ですか？	58.6	14.1	44.5	65.5	13.7	51.8
57	市役所本庁は、利用しやすいと感じましたか？	31.2	23.6	7.6	33.3	22.4	10.9
58	支所は、利用しやすいと感じましたか？	40.2	17.5	22.7	45.2	17.9	27.3
59	小･中学校は、適正に配置されていると思いますか？	56.5	9.9	46.6	54.4	10.6	43.8
60	市の文化施設は、利用しやすいと感じましたか？	45.4	10.2	35.2	45.1	9.9	35.2
61	健全育成の青少年教育が行われていると感じますか？	24.3	12.3	12.0	34.5	18.3	16.2
62	市のスポーツ施設は、利用しやすいと感じましたか？	30.7	12.3	18.4	37.4	14.0	23.4

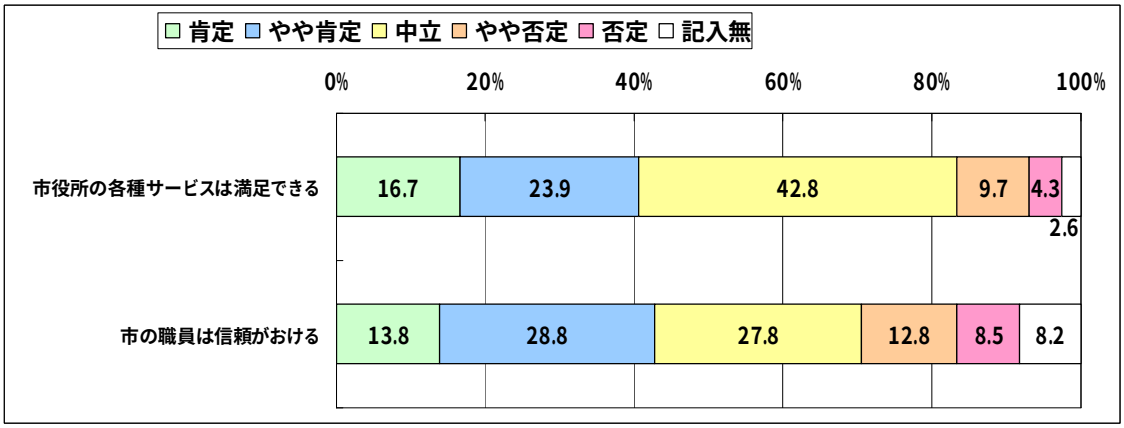
Ⅴ　政策別にみる調査結果

市民アンケートの設問を政策別に分けて分析した。

※　グラフの表示

グラフ区分	満足度調査	行動調査	意識調査	色区分
肯定	満足している	行っている	思う (感じる)	薄い緑
やや肯定	やや満足している	どちらかというと 行っている	まあまあ思う (まあまあ感じる)	ペールブルー
中立	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない	薄い黄色
やや否定	やや不満である	あまり行っていない	あまり思わない (あまり感じない)	ベージュ
否定	不満である	行っていない	思わない (感じない)	ピンク
記入無				白

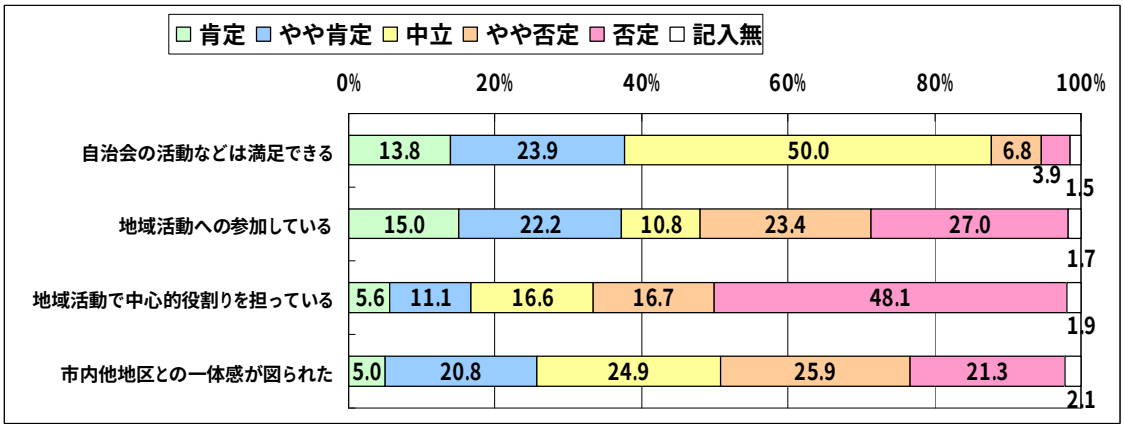
(1)　行政改革に関する調査結果



市役所の行政サービスの満足度及び市職員の信頼については、それぞれ肯定系の回答が 40%を超え、また、否定系の回答が 1 割強、2 割強と低い数値である。

行政改革による行政サービスの見直しや職員研修などによる職員資質の向上が成果として表れ始めたものと推察するが、多様化する市民ニーズに対応するため、今後も公平性･公共性及び必要性を的確に把握し、低コストで高水準の行政運営を心がける。

(2) 自治会･地域コミュニティに関する調査結果



自治会活動の満足度と地域活動への参加に関する肯定系の回答割合が同じくらいであることから、地域活動に参加している市民は、ある程度自治会活動等に満足しているものの、不満を抱いている者は、地域活動に参加していないものと推察する。

また、地域活動のリーダー的な役割りを担っている市民の割合は低く、自治会等におけるリーダー等については、同一の市民が継続して担っているケースが見受けられる。

一方、南アルプス市としての一体感については、まだまだ一体感を感じていない市民の割合が多いが、この設問については、回数を重ねるごとに肯定系の回答が増えてきて、今回始めて 25%（4 人に 1 人）を超えた結果となった。

◆ 「合併後の市内他地区との一体感について」の比較

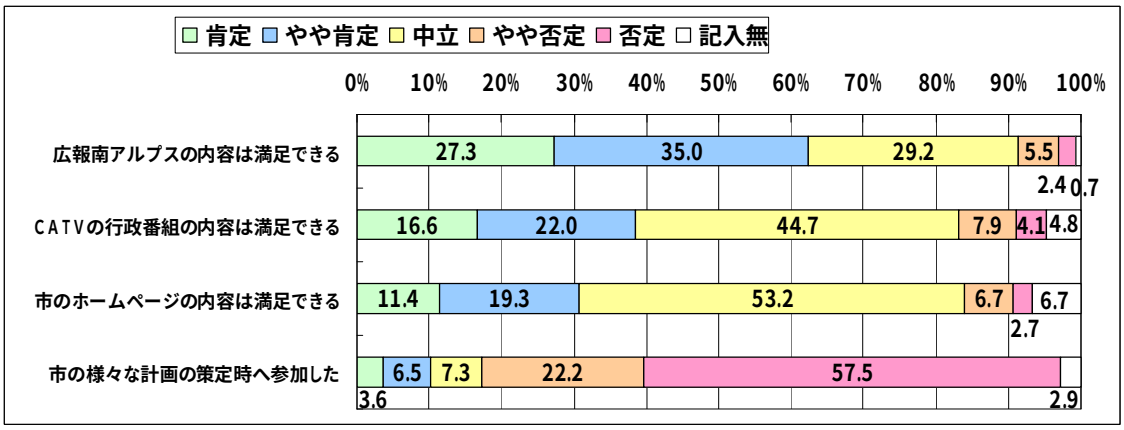
	第 2 回	第 3 回	第 4 回	第 5 回
肯定系の回答率	21.3%	16.7%	19.9%	25.8%

また、一体感を感じていないと回答した内訳を地区ごとに表すと次のとおりとなる。

地区	回答者数	否定系回答者数	否定系回答割合
八田	54 人	34 人	63.0%
白根	162 人	76 人	46.9%
芦安	7 人	5 人	71.4%
若草	107 人	35 人	32.7%
櫛形	159 人	69 人	43.4%
甲西	92 人	38 人	41.3%
記入無	5 人	3 人	
計	586 人	260 人	44.4%

市全体の否定系回答の割合 44.4%より上回っている地区は、八田･白根･芦安の 3 地区で、このことから、市の北部地域では『合併後の一体感が感じられない』と感じている市民が多く、市の南部地域では一体感が感じられてきている傾向が推し量れる。

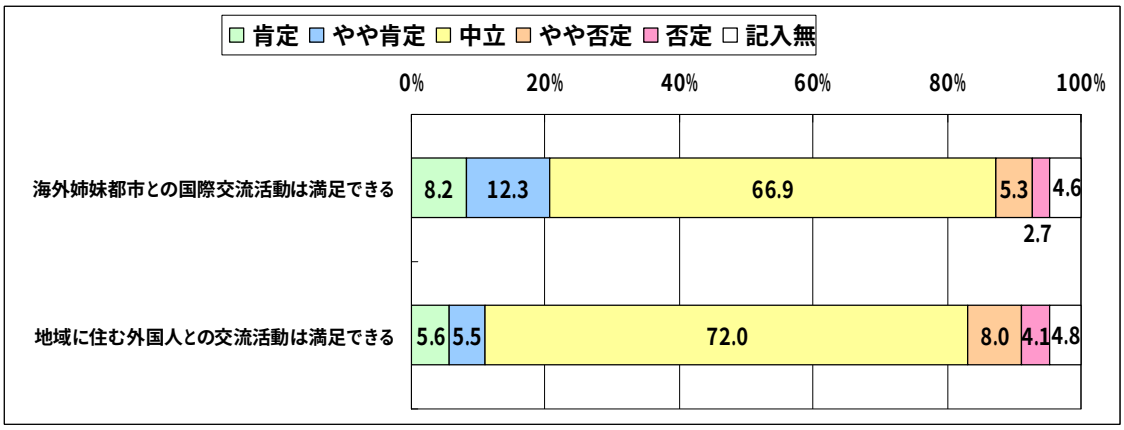
(3) 情報発信と市民参画に関する調査結果



本市の情報伝達手段である“広報紙”“行政放送”“ホームページ”に関する設問に対しては、否定傾向の回答割合が 10%前後と低いことから、情報の発信･伝達については、充実しているものと判断する。中でも、「広報南アルプス」については、第 1 回目の調査から満足傾向が最も高い回答となっている。

しかし、市の各種計画策定時への参画状況をみると 10%程度と低く、市民参画･市民協働という面からは不十分な結果となっている。今後は、審議会･パブリックコメント･計画説明会などの開催や実施の内容について検討し、多くの市民の声が計画に反映できる態勢を整える必要がある。

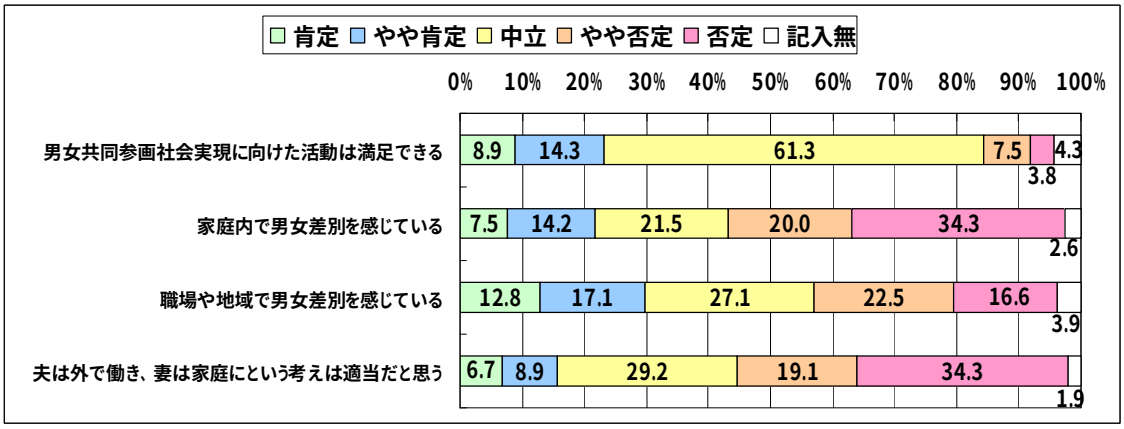
(4) 国際交流と共生に関する調査結果



国際交流活動及び市内在住外国人との交流活動については、中立（どちらともいえない）の回答割合が多く、市民にとって体験（経験）する機会が少ないものと推察する。

国際交流協会を中心に海外の姉妹都市との交流活動を実施してきたが、市内には1,000 人を超える外国人が在住していることから、地域内の共生にも取り組む必要がある。

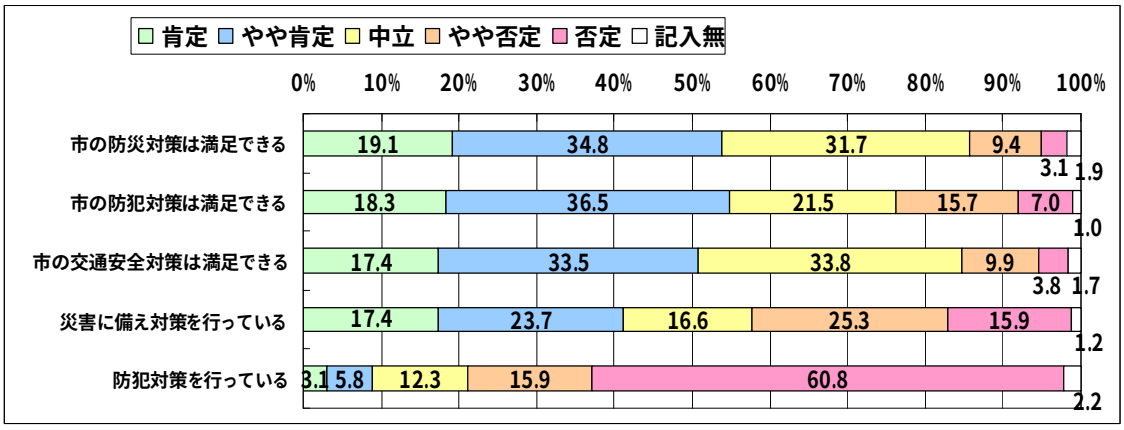
(5) 男女共同参画社会づくりに関する調査結果



男女共同参画に関しては、個人ごとの生活習慣や環境により受け取り方（感じ方）が異なってくるため、回答も様々な状況である。

こうした中で、男女共同参画社会の実現に向けた活動に対する不満系の回答割合や男女差別を感じている割合は 3 割弱となり、現状では男女差別を感じている市民は少ないものと推察する。

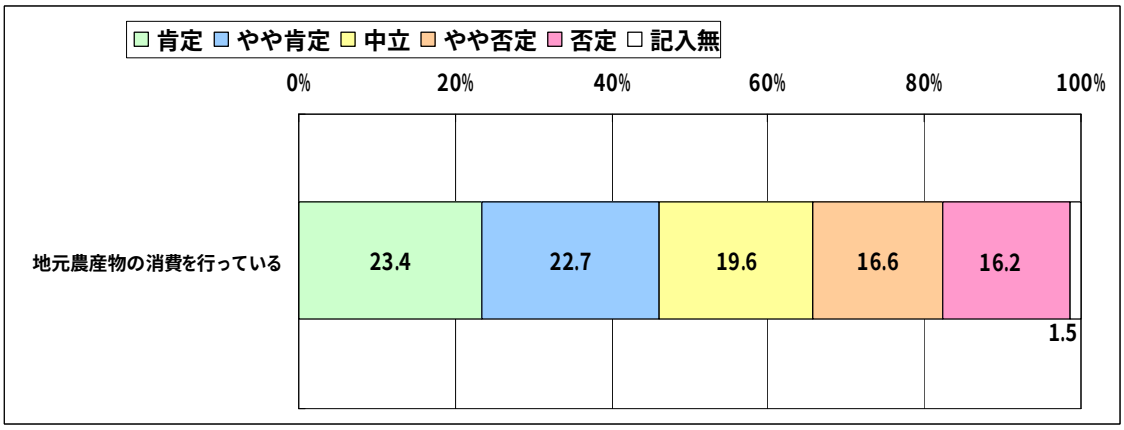
(6) 安全な生活環境づくりに関する調査結果



市が実施している“防災対策”、“防犯対策”、“交通安全対策”については、否定系の回答割合が低く、施策ごとに実施してきた事務事業の成果が表れてきていると判断する。

しかし、個人ごとの防災対策や防犯対策になると、実施している割合は低く、大きな災害や犯罪が発生していないことから危機意識が薄れているものと推察する。

(7) 地産地消に関する調査結果



◆ 第 3 回目からの調査結果との比較

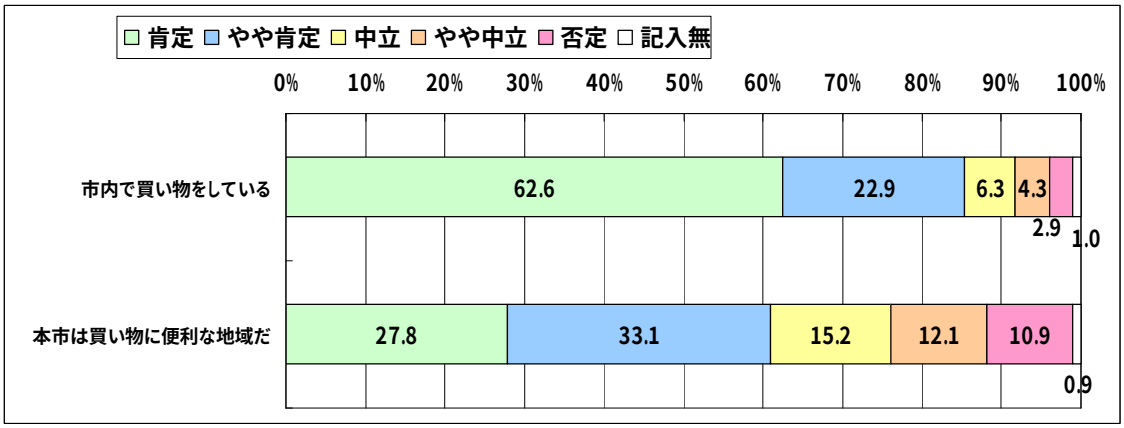
(単位：%、ﾎﾟｲﾝﾄ)

調査区分	肯定系回答割合	否定系回答割合	肯定系－否定系
第 3 回	53.6	15.3	38.3
第 4 回	47.0	17.9	29.1
第 5 回	46.1	32.8	13.3

地産地消については、“食の安全･安心”を確保するために推進されているが、上記の表のとおり実践状況は低下してきている。

これは、産地の表示が義務付けられことにより、農産物を安心して購入できるようになったため、地元農産物へのこだわりが薄れてきているものと推察する。

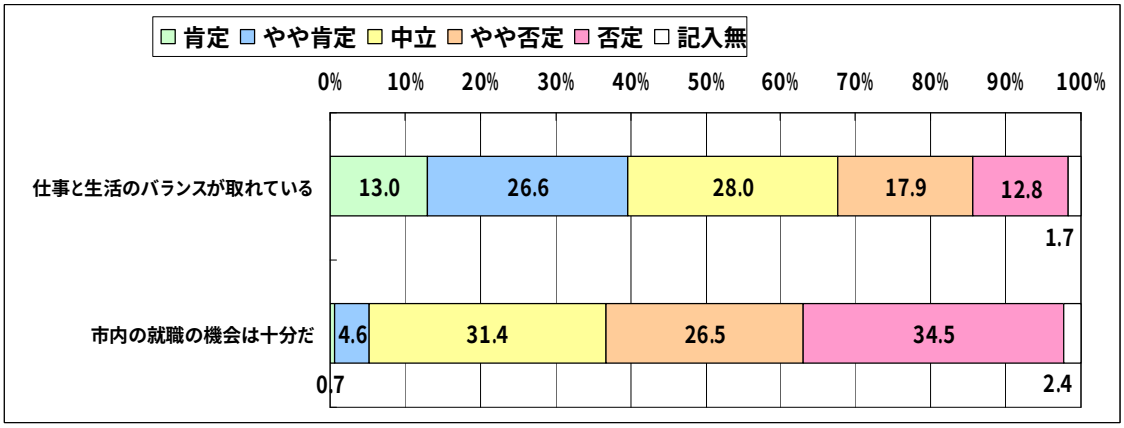
(8) 買い物状況に関する調査結果



市民の市内における買い物状況は、85%以上の高い数値となっている。また、市内での買い物に対する満足度も 60%以上となっている。

これは、大型店舗やショッピングセンターが市内に出店したためで、従来の商店街（個人商店）では、厳しい営業が強いられている状況である。

(9) 就労状況に関する調査結果



◆ 前回の調査結果との比較

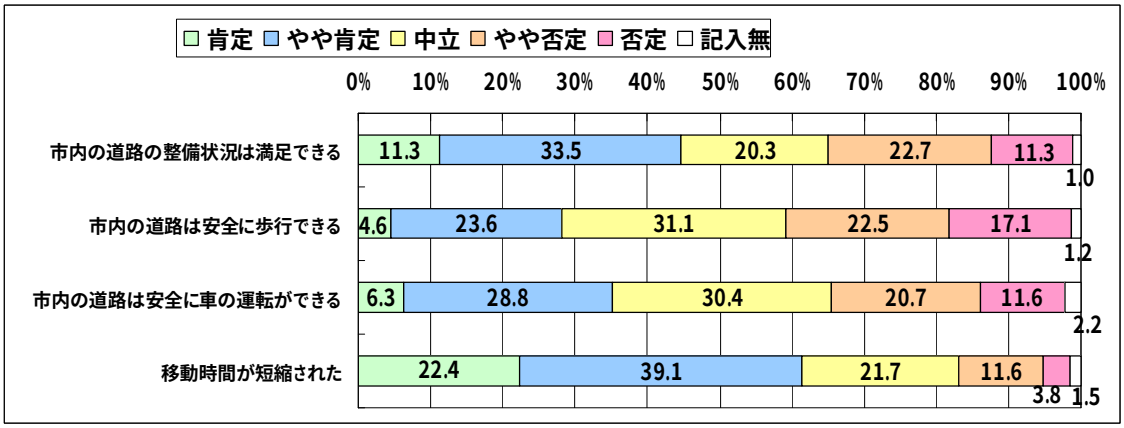
（単位：%、ﾎﾟｲﾝﾄ）

調査区分	肯定系回答割合	否定系回答割合	肯定系－否定系	中立等
第 4 回	37.0	25.4	11.6	37.6
第 5 回	39.6	30.7	8.9	29.7

「仕事と生活のバランスが取れている」という設問については、前回（第 4 回）から調査を始めたため一概に比較し考察することはできないが、“ワークライフバランス”に対する意識が市民の中に浸透し始めたため、前回調査時よりも肯定系・否定系への回答が増え、中立的な回答が減少した。

一方、「市内の就労機会」については、企業誘致等により地元雇用の環境を整えているものの、『希望する職種』に就労できないなどの理由で、調査開始以来、常に肯定系の回答割合が低い数値となっている。

(10) 道路に関する調査結果



◆ 第 1 回目からの調査結果との比較

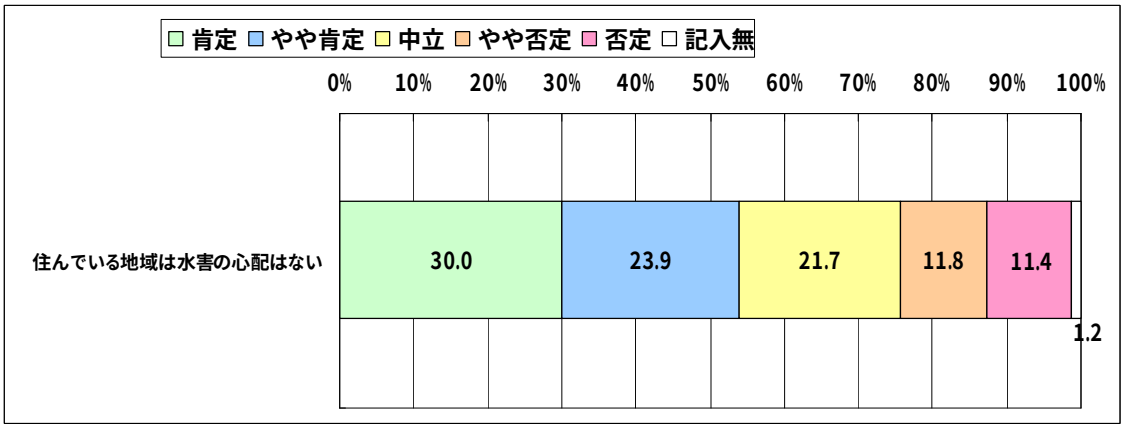
（単位：%、ﾎﾟｲﾝﾄ）

調査区分	肯定系回答割合	否定系回答割合	肯定系－否定系
第 1 回	35.6	37.8	△2.2
第 2 回	40.7	31.0	9.7
第 3 回	44.0	33.8	10.2
第 4 回	45.7	29.6	16.1
第 5 回	44.8	34.0	10.8

市内の道路整備に対する満足度については、第 2 回目の調査以降 40%以上の数値となっている。一方、不満傾向の回答は、調査開始以来 3 割～4 割の範囲で推移している。

満足傾向の回答の要因は、幹線道路の供用開始により、目的地までの移動時間が短縮され利便性が向上したことによるもので、不満傾向の回答については、歩道の未整備や集落内道路の幅員が狭く歩行面において危険が感じられることによるものと推察する。

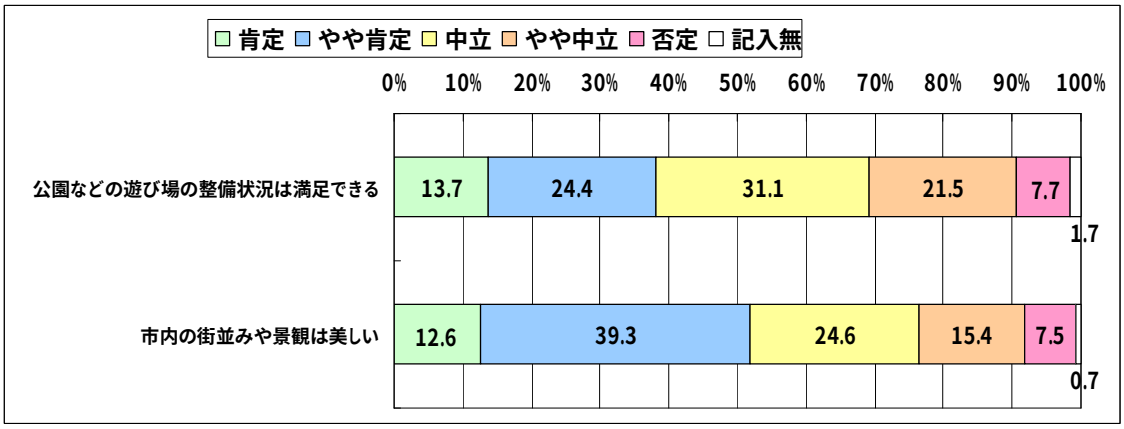
(11) 住んでいる地域の水害に関する調査結果



河川改修事業や水路改修事業の実施により、近年、市内では大きな水害が発生していない。このため、水害に対する心配も低い数値となっているが、否定系の回答割合をみると、前回調査時の 17.5%に対し今回は 23.2%と増加している。

これは、昨今のゲリラ雷雨や長雨などが原因となり全国各地で発生する河川の増水や浸水被害の報道等により不安が大きくなり、否定系の回答が増加したものと推察する。

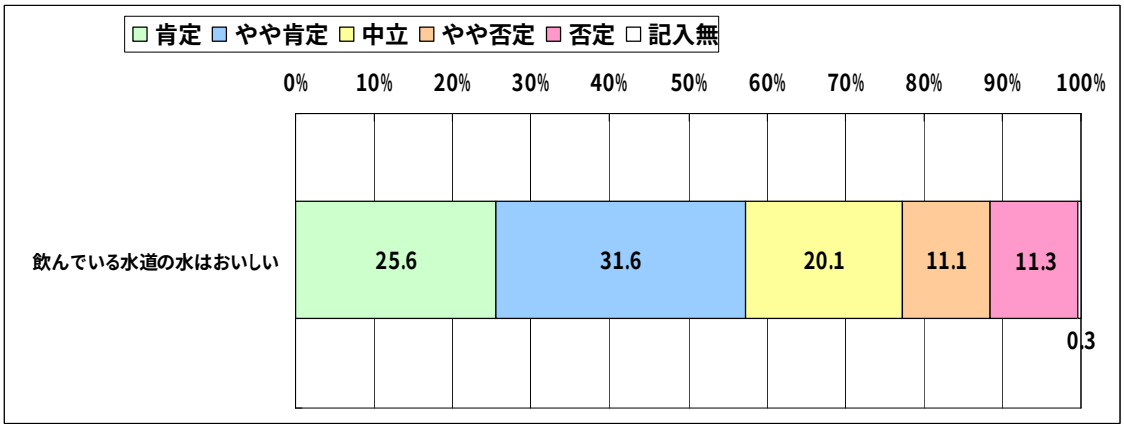
(12) 街並み景観や安らぎ空間に関する調査結果



本市には、『櫛形中央公園』をはじめ、都市公園･農村公園･地区公園がそれぞれの地域に点在し、数的には充足している。しかし、“公園などの遊び場の整備状況”に関する調査では、不満系の回答割合が 3 割近くあり、徒歩で通える身近な公園の有無が満足度に対する回答を左右しているものと推察する。

一方、“本市の街並み景観”を美しいと感じている市民の割合は 50%を超えているものの、言い換えれば、約半数の市民は、本市の景観の美しさに気付いていないということになる。これは、「当たり前の景観」と感じている市民が多いものと推察する。

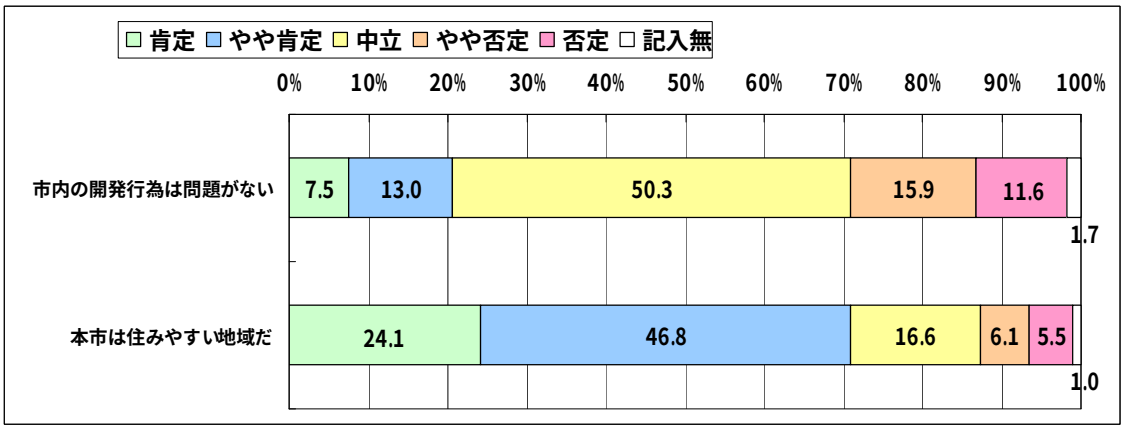
(13) 上水道に関する調査結果



上水道･簡易水道･小規模水道については、企業局が一括管理している。

「飲んでいる水はおいしい」の設問に対し、肯定的な回答割合は 6 割近くになっており、今後、老朽化した施設等の改修を行うことで、この割合は増加するものと考える。

(14) 土地利用と住環境に関する調査結果



合併前と比較して合併後は道路網の整備や合併効果の影響で大規模な開発も行われたが、何れも都市計画法や農振法の適用範囲の中で実行されており、無秩序な開発は行われていない。その結果が、中立の回答割合が 50%を占めていることに表れている。

しかし、否定的な回答割合が 25%以上となり、4 人に 1 人は本市の土地利用について問題があると感じていることとなるが、これが、開発に対する問題意識なのか、開発すべきと考える地域が未開発であることへの問題意識なのかは定かではない。

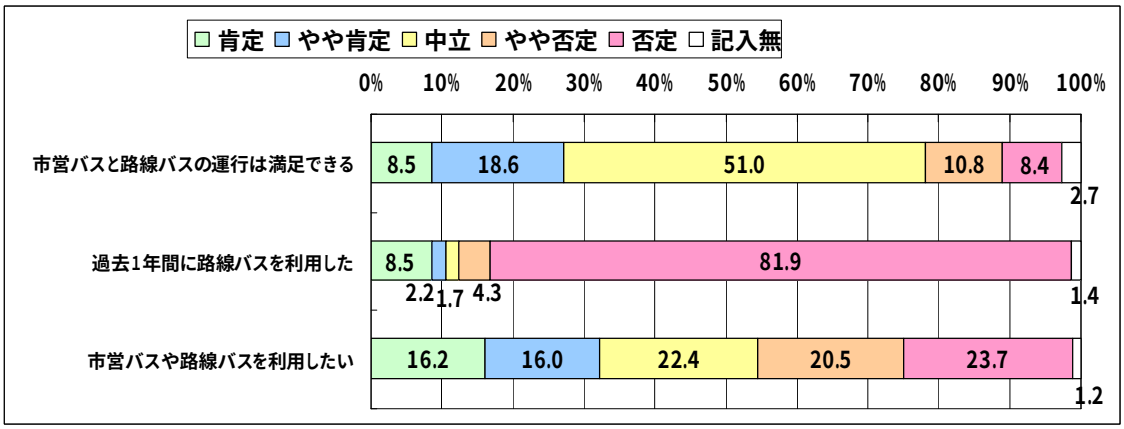
一方、“本市の住みやすさ”に関しては、肯定系の回答割合が 7 割を突破した。道路などの生活基盤や買い物の便利さなど、様々な面で整備されてきた成果が表れたものと推察する。

◆ 第 1 回目からの調査結果との比較

(単位：%、ﾎﾟｲﾝﾄ)

調査区分	肯定系回答割合	否定系回答割合	肯定系－否定系
第 1 回	52.6	11.7	40.9
第 2 回	51.7	17.2	34.5
第 3 回	52.3	17.5	34.8
第 4 回	57.7	13.3	44.4
第 5 回	70.9	11.6	59.3

(15) 公共交通に関する調査結果



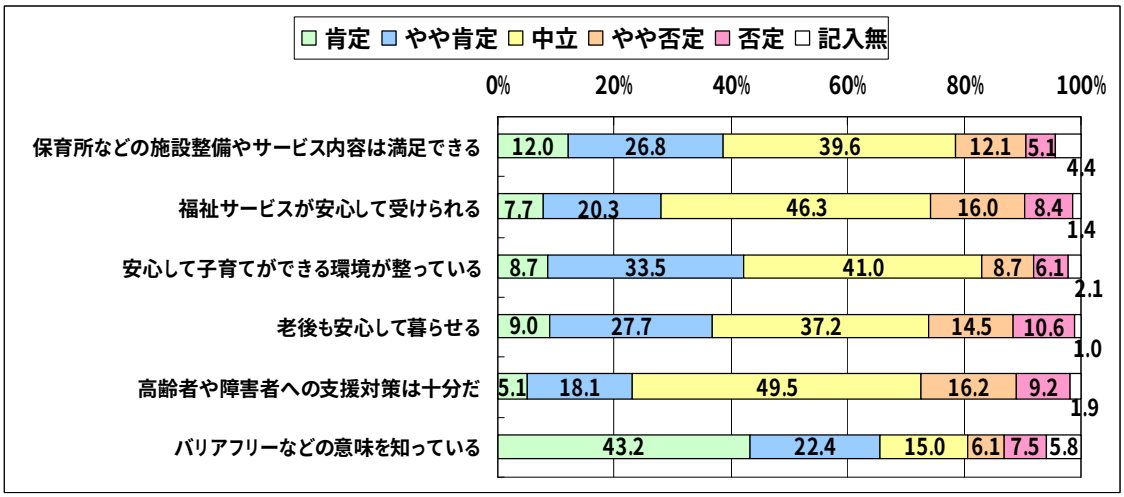
軌道系交通機関のない本市にとって路線バスを中心とした公共交通の充実は、合併時からの懸案事項である。

しかし、“市営バスと路線バスの運行”に対する満足度調査の結果では、満足傾向の回答割合が 27.1%、不満傾向の回答割合が 19.2%となり、必ずしも不満に思っている市民が多いものではない結果となっている。

また、路線バスの利用については、「過去 1 年間において路線バスを利用しなかった」と回答した割合が 8 割以上を占め、「今後、市営バスや路線バスを利用したい」と回答した割合が 3 割程度となっている。

こうしたことから、本市においては依然として自家用車への依存度が高く、公共交通の必要性は、まだまだ低いものと推察する。

(16) 社会福祉に関する調査結果

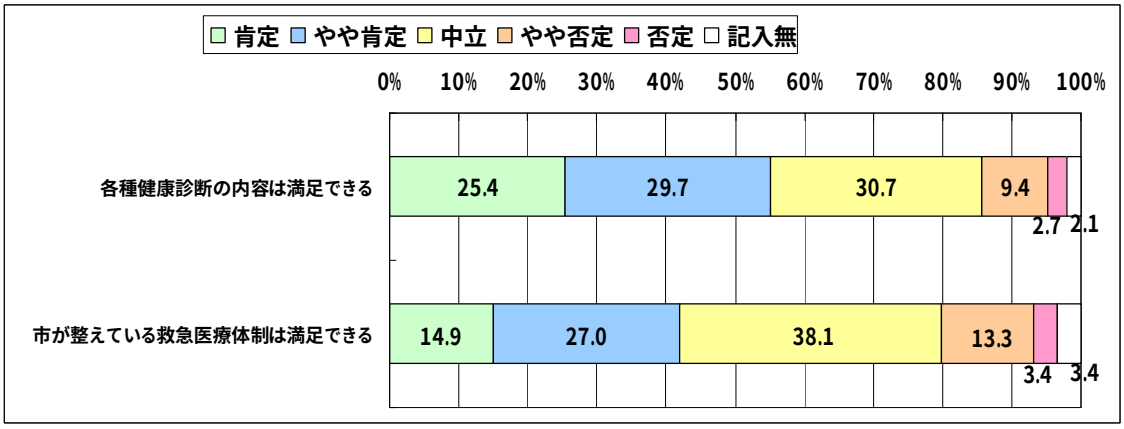


子育てに関しては、“保育所などの施設整備やサービス内容”や“安心して子育てができる”の設問で否定系の回答割合が 20%以下と低く、ソフト面及びハード面の内容がある程度充実しているものと推察する。

しかし、地域福祉に関しては、肯定系の回答割合と否定系の回答割合の差が少なくなり、“高齢者や障害者への支援対策”の設問では、肯定系の回答割合 23.2%に対し、否定系の回答割合が 25.4%と肯定系の回答割合を上回っている。

児童福祉に比べると障害者を含む高齢者等の社会生活弱者に対する福祉施策に対して、否定系の回答割合が多くなっているので、不満内容等を把握し事務事業・サービス内容の見直し・検討を行う必要がある。

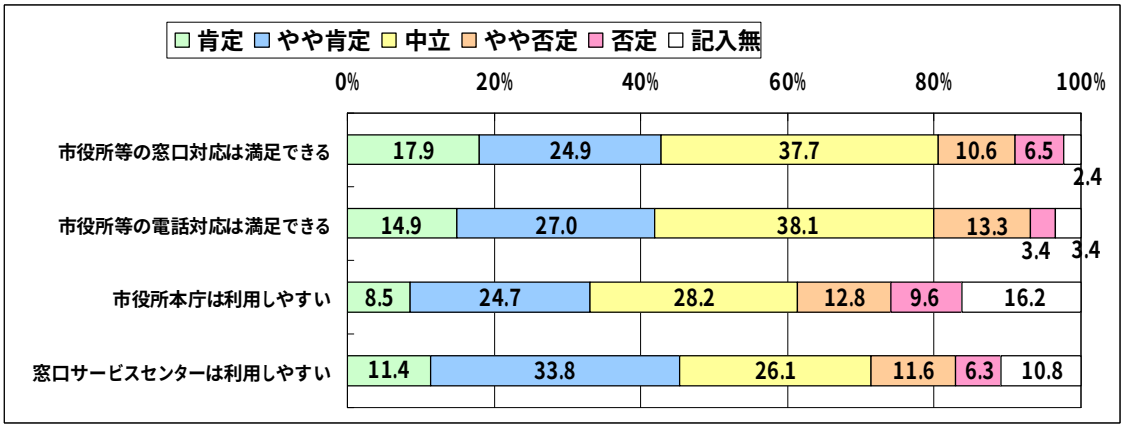
(17) 保健・医療に関する調査結果



『健康増進計画・健康かがやきプラン』に基づき実施している各種健康診断については、年齢制限により受診ができないなどの不満が多少はあるものの、不満傾向の回答割合は 12.1%と低く、全体的には充実しているものと推察する。

また、公営の総合病院がない本市ではあるが、医療機器の設置に対する支援や夜間・休日等の救急医療体制の整備に対し支援することで不足部分をカバーしているところであり、“市が整えている救急医療体制”に対する設問では、肯定系の回答割合が否定系の回答割合を上回っていることから、救急医療体制の整備に対する取り組みについても概ね市民の理解をいただいているものと推察する。

(18) 窓口サービス等に関する調査結果



◆ 第１回目からの調査結果における肯定系回答割合の比較

(単位：%)

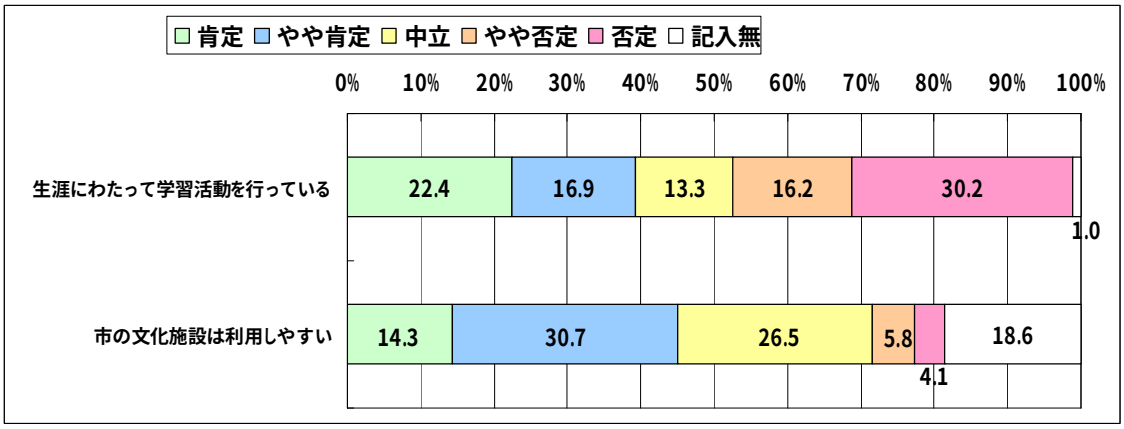
設　問	第１回	第２回	第３回	第４回	第５回
市役所等の窓口対応	26.3	32.2	31.4	36.2	42.8
市役所等の電話対応	29.1	36.3	37.0	39.4	41.9
本庁の利用のしやすさ	17.7	21.3	25.7	31.2	33.2
窓口ｻｰﾋﾞｽｾﾝﾀｰの利用のしやすさ	35.1	38.7	37.3	40.2	45.2

市役所等の窓口対応及び電話対応は、直接市民と接する「市の顔」となるポジションで、行政サービスの根幹となるところである。

上記の表のとおり“窓口対応”、“電話対応”とも、年々満足傾向の回答割合は増加している。これは、職員研修等を通して職員の意識改革・資質向上を図ってきた成果が表れたものと推察する。

また、本庁や窓口サービスセンター（支所）等の利用のしやすさについては、ワンストップサービスが実現できない状況の中で、組織改革等を実施し来庁者に不便をかけないように取り組んできた成果が表れたものと推察する。

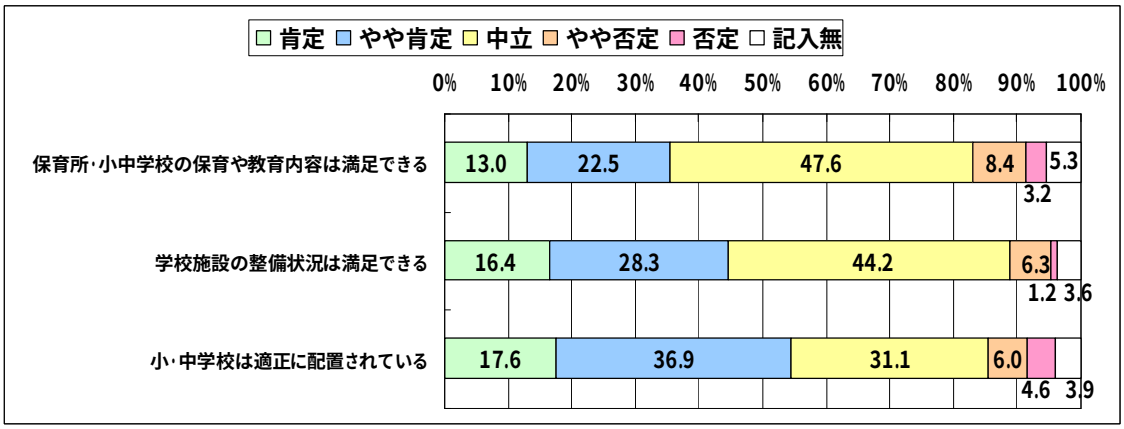
(19) 生涯学習活動及び文化施設に関する調査結果



今回の調査から“趣味”、“娯楽”も生涯学習の中に含める形で調査を行ったが、実行系の回答割合は 40%以下であった。総合計画後期基本計画の目標値が 50%に設定してあることから、市民ニーズに対応した生涯学習講座を開催するなど生涯学習活動の啓発を図る必要がある。

一方、市内の文化施設の利用のしやすさについては、否定系の回答割合が 10%未満と低い数値であることから、施設面は充実されているものと推察する。

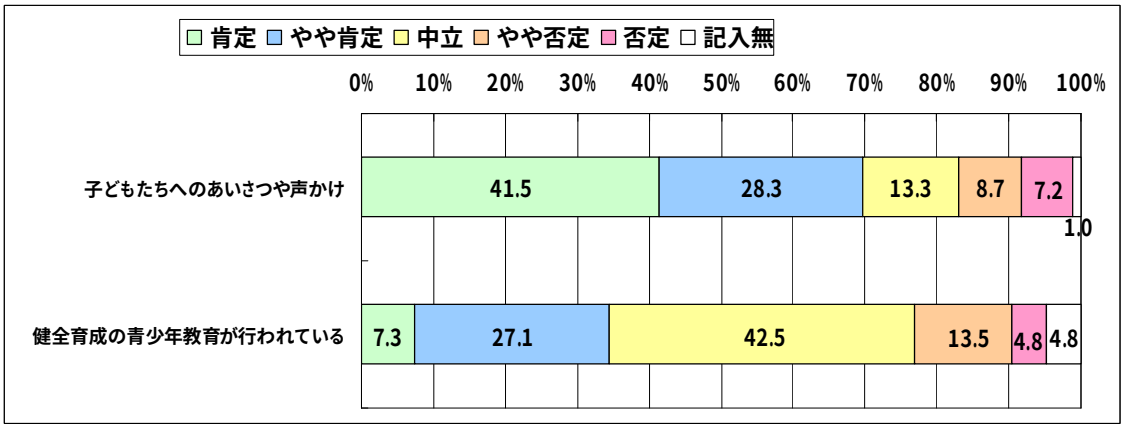
(20) 学校教育に関する調査結果



学校施設に関しては、校舎や付属施設の耐震化並びに大規模改修を施すとともに、パソコンなどの教育資機材なども規定数以上に設置しているなど充実している。また、市が独自に教員を増員し、教科や学年によっては複数の教員を配置するなど学習面への支援体制も実施している。

こうしたことから学校教育に関しては、否定的な回答割合が低い数値になっているものと推察する。

(21) 青少年健全育成に関する調査結果

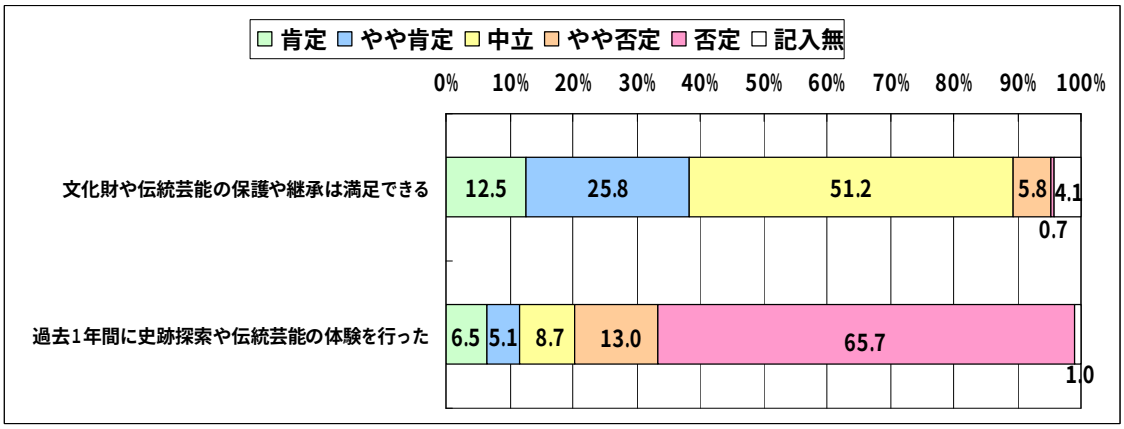


青少年健全育成の基本となる“子どもへの声かけ”については、地区民会議や育成会などの熱心な活動により市民に浸透した結果が、肯定系の回答割合が 70%近い高い数値となったものと推察する。

しかし、「健全育成のための青少年教育が行われている」の設問については、肯定系の回答が 34%で、声かけ運動の実施割合に比べると認識が低いものと思われる。

これは、「青少年教育」という表現が曖昧なため、中立（どちらともいえない）の回答が多くなったものと推察する。

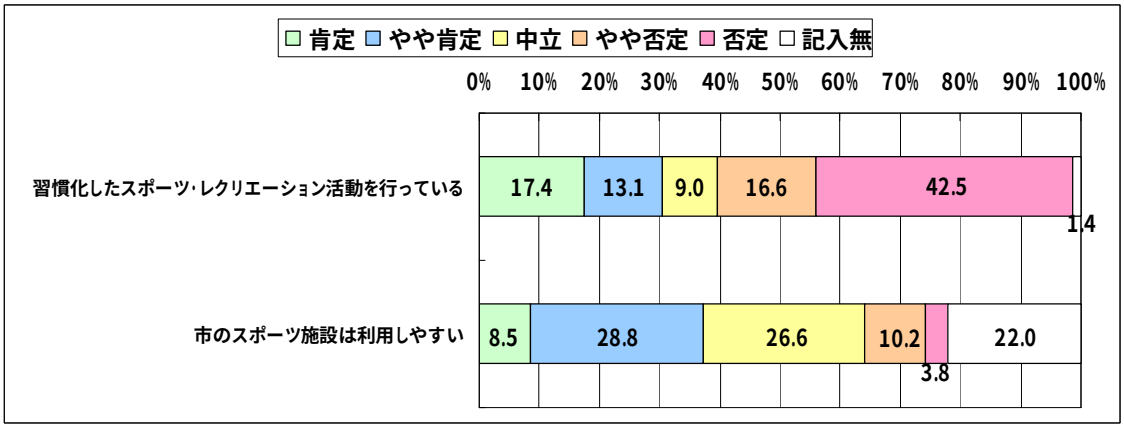
(22) 文化財･伝統芸能に関する調査結果



文化財や伝統芸能に関しては市民の関心が低く、「文化財や伝統芸能の保護や継承」に関する満足度調査では、中立（どちらともいえない）の回答割合が 50%以上を占め、「過去 1 年間に史跡探索や伝統文化の体験を行った」の設問に対しては、否定系の回答割合が 77.7%となった。

このことから一部の市民にだけに認識されているとものと推察し、今後、普及・啓発活動の強化が必要となる。

(23) スポーツ・レクリエーションに関する調査結果



習慣化したスポーツ等を行っている市民の割合は 30%程度で、“行っていない”と回答した市民の割合の 42.5%よりも低い数値となっている。

市民生活の基本となる健康づくりにも関連しているところなので、この 4 割強の数値を如何に減少させるかが、今後の課題になってくる。

一方、スポーツ施設の利用のしやすさについては、否定系の回答割合が 14%と低いことから、施設数及び施設の種類等において充実しているもの推察する。